

創立50周年記念誌

だれもが、その人らしく、

住み慣れた地域で

いきいきと暮らせるまち 柏



社会福祉法人 柏市社会福祉協議会

だれもが、その人らしく、

住み慣れた地域で

いきいきと暮らせるまち 柏

創立50周年記念誌



社会福祉法人 柏市社会福祉協議会

目次

●発刊にあたって	1
柏市社会福祉協議会会長 為 成 勝五郎	
●祝辞	3
柏市長 本 多 晃	
柏市議会議長 山 沢 啓 伸	
千葉県社会福祉協議会会長 早 川 恒 雄	
柏市社会福祉協議会顧問 松 崎 良太郎	
柏市社会福祉協議会前会長 六 川 カホル	
柏市社会福祉協議会前副会長 勝 矢 孝 雄	
●歴代会長・役員一覧	9
歴代会長	
歴代役員	
旧沼南町社会福祉協議会歴代役員	
●柏市の概要	13
沿革	
位置と地形	
●柏市社会福祉協議会のあゆみ	17
柏市社会福祉協議会のあゆみ	
旧沼南町社会福祉協議会のあゆみ	
●社会福祉協議会の事業	51
一般福祉事業	
地域福祉推進事業	
ボランティア・市民活動支援事業	
福祉サービス利用援助事業	
高齢者福祉事業	
障害者福祉事業	
児童・母子（父子）福祉事業	
在宅福祉サービス事業	
ファミリー・サポート事業	
自主財源拡充事業	
団体事務局	
●資料	81
定款	
社会福祉協議会の組織図	
平成18年度予算のあらまし	
創立50周年記念事業準備委員会	



発刊にあたって



「柏市社会福祉協議会

創立50周年にあたり」

柏市社会福祉協議会

会長 為成 勝五郎



柏市社会福祉協議会は、昭和31年7月30日に発足し、本年、創立50年の節目の年を迎えることができました。これもひとえに、本会の諸事業に対する皆様の深い御理解と、御協力の賜と心からお礼申し上げます。

この間、社会福祉を取り巻く情勢は大きく変化してまいりました。昭和47年2月に社会福祉法人の認可取得以後、逐次本会運営体制・組織の充実強化を図り、乳幼児から高齢者まで全ての住民を対象に事業を推進してまいりました。さらに昭和62年度からは地域福祉、在宅福祉サービス事業に重点を置き、主に援護の強化、乳幼児・児童対策、高齢者対策、心配ごと相談の充実、福祉団体・ボランティア団体の育成、福祉教育の推進、地域組織体制の充実強化を図ってまいりました。

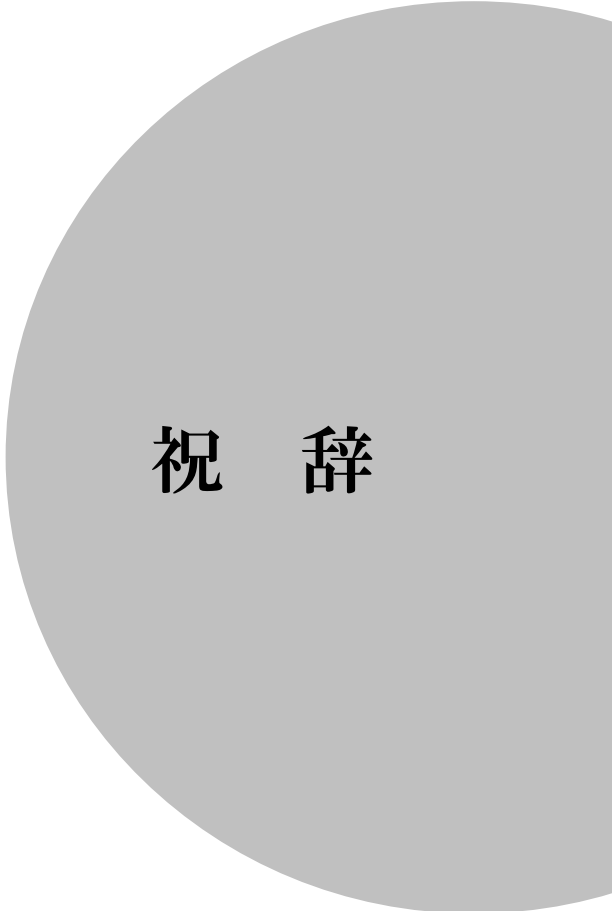
現在、わが国の社会福祉は、社会福祉法の改正や介護保険制度の見直し、また障害者自立支援法の制度開始により大きな変革の時を迎えています。行財政改革や指定管理者制度の導入、NPO法人・民間事業者等の福祉部門への参入などにより、社会福祉協議会の運営は大変厳しい状況下にあります。その担うべき責務はますます増大し、期待もまた高まっています。

平成17年3月28日、柏市・沼南町の合併に伴い、本会は沼南町社会福祉協議会と合併して、新生「柏市社会福祉協議会」としてスタートしました。

平成17年度には、誰もが住み慣れた地域で安心して生活ができる福祉社会の実現を願い、行政計画である「柏市地域健康福祉計画」を受け、地域福祉を具体的に推進するための「柏市地域健康福祉活動計画」を策定いたしました。この計画は、地域に潜在しているニーズを取り上げ、地域住民の自発的活動を支援するとともに、地域の多様な主体と協働しながら「共に支えあう地域社会づくり」を目指して地域福祉を総合的に展開・推進する計画となっています。地域、民間組織、団体、行政等との協働の考えのもとに、計画の施策や活動を推進し、市民の福祉増進に努める決意であります。

今後とも地域福祉の推進に、一層の御支援と御協力を心からお願い申し上げます。

結びに、半世紀50年にわたる本会活動を振り返り、これまで努力して来られました皆様に心から敬意を表しますとともに、ここに創立50周年記念誌を刊行し、先人の偉業を偲びつつ記録にとどめ、今後の活動に意を尽くし努力してまいり所存であります。



祝 辞



「祝辞」

柏市長

本 多 晃



柏市社会福祉協議会が創立50周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。柏市社会福祉協議会が半世紀にもわたる活躍を続けてこられましたのは、会員を初め関係者各位のご努力によるものであり、ここに、あらためて敬意と感謝の意を表します。

さて、本市は平成17年3月沼南町との合併により「新柏市」が誕生し、同年8月のつくばエクスプレスの開通により活気あふれるまちづくりが推進されるなど、新たな時代の段階に入っております。

一方、社会福祉を取り巻く環境も大きく変化しています。少子高齢化が他に類を見ない速さで進む中、個人の意思、生活の質等が重要視される社会変化、個人の意識変化を背景に、市民の健康福祉需要も増大、多様化、複雑化しています。

このような環境の変化に対応するために、本市では、平成16年度に柏市地域健康福祉計画を策定し、「だれもが、その人らしく、住み慣れた地域でいきいきと暮らせるまち 柏」を地域健康福祉像として掲げ、様々な施策を総合的、計画的に推進しているところですが、地域住民との連携による地域福祉活動や、在宅福祉サービスを展開している柏市社会福祉協議会との連携は欠くことはできません。

こうした中、平成17年度に柏市社会福祉協議会は柏市地域健康福祉計画と同じ理念に基づき、多くの住民や民間組織・団体等の参画のもとに、民間の行動計画である柏市地域健康福祉活動計画を策定されました。両計画は健康福祉施策を進めるための車の両輪のようなものであり、今後も市と連携して地域における健康福祉の推進役を果たすことを期待しております。

終わりに、柏市社会福祉協議会のますますのご発展と、皆様方のご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げて、お祝いの言葉といたします。



「創立50周年にあたって」

柏市議会議長

山 沢 啓 伸



柏市社会福祉協議会が創立50周年を迎えましたことに、心からお祝い申し上げます。

貴協議会は、昭和26年に制定された社会福祉事業法（現在の「社会福祉法」）に基づき、昭和31年に創立されてから市民や関係機関と共に、本市の地域福祉活動の中心的役割を果たしております。

また、昨年は沼南町社会福祉協議会との合併により、より一層の発展向上が期待されております。

50年という長期間、地域福祉の活動を着実に推進されたことは、これまでの歴代の会長さんをはじめ、地域福祉を支える会員の皆様、更には、役員の皆様の御尽力のたまものと、心から敬意を表するものであります。

これから、少子高齢化の到来を間近にし、地域福祉を計画的に進めるため、「地区計画」「民間協働推進計画」「社協発展・強化計画」の3つの分野別計画を併せて1つの活動計画として取り組むと聞き及んでおります。一つひとつ難題をクリアし、なお一層市民の幸福のために御活躍くださるようお願い申し上げます。

終わりに、柏市社会福祉協議会のますますの発展を祈念しましてお祝いの言葉いたします。



「50周年記念誌発刊に寄せて」

千葉県社会福祉協議会

会長 早川 恒雄



柏市社会福祉協議会が創立50周年を迎えられましたことは誠に意義深いことであり、謹んでお祝い申し上げます。

今日までの長い間、関係各位の御努力、御活躍により昭和31年7月30日の発足以来多くの苦難を乗り越え沢山の実績を残され、民間社会福祉団体として成長発展されてこられましたことに敬意を表する次第であります。

貴会の半世紀の歴史は、地域で暮らしている住民の方々の歩みであります。また、昭和62年から今日までの20年間は、地域福祉・在宅福祉サービスの推進の歩みと言ってよいと思います。

その活躍は、小域福祉圏地域ぐるみ福祉ネットワーク事業推進委員会の設立から始まり、翌年「高齢者に対する配食サービス」が開始されました。平成元年には、ねたきり老人の紙おむつ助成事業を開始し、さらに、福祉車両を住民に貸し出しをするなど、たえず福祉ニーズの実現に向けて地域住民の立場に立ち事業を展開されてきました。そして、平成3年に、住民参加型有償在宅福祉サービスである「さわやかサービス事業」を実施し、平成9年に、「小域福祉圏地域ぐるみ福祉ネットワーク事業推進委員会」を「地区社会福祉協議会」への移行が行われました。平成11年は、かしわ広域後見支援センターの業務が開始され、「地域福祉権利擁護事業」である「福祉サービス利用援助事業」が実施されました。平成12年は、かしわファミリー・サポート・センター事業を実施し、平成13年度は、介護予防事業を開始し、また、国の事業である「ふれあいのまちづくり事業」の指定を受け、翌年からふれあいのまちづくり推進部会を設置し、相談情報化推進部会等の各種部会を組織し、高齢者、障害者、児童を対象に様々な地域福祉事業を展開されました。

平成17年には、沼南町社会福祉協議会との合併を果たし、今日まで地域福祉活動を展開されてまいりました。

貴会には常に新しい事業に果敢に取り組み、その事業の充実を図り地域住民の福祉に役立てているところに注目いたします。また、県内においてもそれらの活動が高く評価されているところであります。これらの事業の推進に取り組まれている役職員並びに関係職員の皆様方の御努力に対しまして感謝を表すところであります。

終わりに、この50周年を契機として、ますます貴会が発展されるよう御期待申し上げます。



「創立50周年を祝う」

柏市社会福祉協議会

顧問 松崎 良太郎

(初代・第三代 柏市社会福祉協議会会長)

昭和29年、市制施行に伴い同31年7月30日、柏市社会福祉協議会が発足し私は会長に選出されたが、これより先、柏町時代には独立した社協は持てず専ら東葛飾社協の理事として福祉活動を推進した。

発足以来、18年間会長を務め49年7月退任した。その間季節保育所の開設、敬老会、心配ごと相談所、結婚相談所、青少年問題協議会、その他公民館活動と連携して多彩な活動を展開した。

退任に際しては、時の柏の政治情勢が強く影響した。私の後任として誕生した二代目会長渡部豊夫氏は、4期8年間の任期で退任し、その後任として私が敢えて三代目の会長に登板しなければならない事情があった。更に63年7月私の退任に当たっては、私自らが辞任したとは言え初代会長退任の事情と全く同様の状況であった事を思うと、会長交代劇は正に名ドラマと言うべく有力な演出家の存在が有ったことは事実である。

ひるがえって24年間の会長任期中に、私が柏市社協会長の身分をもって他の福祉事業に携わる事が出来たことは私の最も誇りとする事である。

次に列举すると

1、老人クラブ連合会の結成

昭和38年4月1日、老人福祉法が制定される以前に連合会を発足させ柏三小の体育館で会旗の伝達式を挙行。当時わずか18クラブであった。

1、豊四季光風園（社会福祉法人柏光会）理事長33年

横山武夫理事長の急逝の後をうけて

1、ひかり隣保館老人ホーム（社会福祉法人千葉県厚生事業団）理事長28年

前理事長県社協会長宮崎識栄氏の後任として

1、千葉県社会福祉協議会副会長18年

昭和49年千葉県社会福祉センター建設（建設委員長・募金委員長）

1、県社協内松下基金創設（1億3千万円） 昭和48年

本会創立と共に歩んできた50年、胎動期を通算すると私にとっては60年、町議、市議、県議の政治生活はすべて福祉事業遂行の手段といっても過言ではない。自ら福祉議員と自認する所以である。その間に学んだ故事「人間万事塞翁が馬」「禍福糾える縄の如し」「創業は易く守成は難し」の名言を実体験した生活は尊くもあり美しい過去であった。

社会貢献は長寿の要件とか、喜寿、傘寿、米寿、卒寿を経て95歳の今日、白寿を目指して健康管理に徹し、花鳥風月の心境の中に本協議会の発展を見守りたい。

弥栄を祈ります。



「お祝いの言葉」

柏市社会福祉協議会

前会長 六 川 カホル

(第六代 柏市社会福祉協議会会長)



柏市社会福祉協議会が創立50周年を迎えられましたこと、まことにおめでとうございます。心からお喜び申し上げます。

創立時の昭和31年頃は、戦争の無い平和な日本を願いながら、国民一人ひとりが一生懸命国の再建に取り組んでおりました。神武景気と云う言葉が生まれた程、大企業は業績を伸ばし、町の中は明るく生き生きとしておりましたが、救いの手の届かない所で精一杯生きている方も居る時代であったと覚えております。創立時の関係者の皆様方には、どんなにかご苦勞も多かったことと、ご努力とご熱意に対し感謝と敬意を表するものでございます。

創立時から50年の歳月が流れました今、社会環境は別の意味で決して良いとは云えない時代になってしまいました。30年位前迄は毎日聞かれた近くの空地で遊ぶ子供さん達の可愛い声も、今は懐かしい思い出となってしまいました。

少子高齢社会への対応のひとつとして、柏市、柏市社会福祉協議会のご指導で誕生しました「ふれあいサロン」、「おせつ会」等、地域、町会、自治会単位の活動が、そして中には個人でご自宅を提供下さったの活動と、今も増え続けておりますことは大変嬉しいことでございます。「誰もが住み慣れた家で、安心して暮らせる町づくり」のスローガンのとおり、現在の活動を原点として、更に心の輪を広げることが出来ますことを願っております。

平成15年3月の柏市福祉公社解散による一部事業の移管、そして昨年3月の旧沼南町社会福祉協議会との合併に際しましては、合併協議会の委員、職員の皆様のお力により事無く成立しましたこと、改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。そして更に柏市の中核市実現を目前に、柏市社会福祉協議会でも数々の問題を抱えておられることと存じますが、相変わらずのご指導を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、柏市社会福祉協議会のますますの充実とご発展を心からお祈り申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



「創立50周年を祝して」

柏市社会福祉協議会

前副会長 勝 矢 孝 雄

(旧沼南町社会福祉協議会会長)



柏市社会福祉協議会創立50周年、おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

終戦直後、復興期の20年代はともかく、その後30年代からの半世紀もまた様々な分野に於いて、発展の中にも変化激しい時代でありました。こうした中、私達は現在では、高度で便利な文明社会に暮らしています。

物が溢れ、消費を繰り返して「今さえ便利な生活を送ればよい」といった考え方と引き換えに、自然環境を破壊し、人々の心が荒廃し、信じがたい犯罪の増加がみられたり、少子高齢化、核家族化など様々な問題が深刻化しています。こうした様々な変化の中で、本社協にあっては、歴代の関係各位の献身的努力の積重ねによって、内容の充実発展を期してまいりました。また去年は、柏市、沼南町の合併にともない両社会福祉協議会の合併が円満に成就され、新生柏市社会福祉協議会の第一歩が踏み出されたばかりであります。

とどまる事のない時の流れが、一瞬の現在を、惜しげもなく過去へとほこび脈々と未来へ流れていきます。

50周年を一節として、ここに新たな心で将来を展望し、平和で生き甲斐のもてる福祉社会建設のために、更なる飛躍を期待する次第であります。柏市社会福祉協議会創立50周年にあたり、お骨折りいただきました関係各位に深甚なる敬意を表しますとともに、今後とも恵まれた環境を生かし、市民の方々へのよりきめ細やかなサービス提供の中核として、柏市社会福祉協議会がますます発展されますことを祈念しつつ、創立50周年の歩みに心から拍手を送り、お祝いのことばといたします。



歴代会長・役員一覧



歴代会長

会 長 名	就 任 期 間
初代会長 松崎良太郎	昭和31年 7月30日 ~ 昭和49年 7月 2日
第二代会長 渡部豊夫	昭和49年 7月 3日 ~ 昭和57年 7月 2日
第三代会長 松崎良太郎	昭和57年 7月 3日 ~ 昭和63年 7月 2日
第四代会長 根本三郎	昭和63年 7月 3日 ~ 平成 6年 7月 2日
第五代会長 市村友衛	平成 6年 7月 3日 ~ 平成10年 7月 2日
第六代会長 六川カホル	平成10年 7月 4日 ~ 平成17年 7月 3日
第七代会長 為成勝五郎	平成17年 7月 4日 ~ 現在

歴代役員

役 職	昭和31年 (設立時)	昭和47年 (法人取得時)	昭和51年 (創立20年)
会 長	松崎良太郎	松崎良太郎	渡部豊夫
副 会 長	田中貞雄 田中徳左衛門 後藤正作	田中貞雄 日暮甚市	吉野千代吉 日暮甚市
常務理事	戸部敏一	伊藤紫朗	青木常雄
理 事	高橋庄次郎 仲澤まさ乃 日暮甚市 豊島陽風 友野友市 石井正孝 伊藤紫朗 戸川延明 坂巻貞子 多田秀雄	高橋庄次郎 仲澤まさ乃 後藤正作 豊島陽風 友野友市 石井正孝 井上長次 長山巍子 坂巻貞子 平川徳之雄 多田秀雄	鳥居喜一 嶋根謙七 山田キ吉 安藤光吉 小林正久 大西信久 原静子 小菅一雄 伊藤徳太郎 高橋一成 木川威
監 事	及川清吉 染谷喜市	及川清吉 染谷喜市	寺嶋和男 鈴木千之

役 職	昭和 61 年 (創立 30 年)	昭和 63 年	平成 2 年
会 長	松 崎 良太郎	根 本 三 郎	根 本 三 郎
副 会 長	根 本 三 郎 桑 原 元 次	桑 原 元 次 市 村 友 衛	市 村 友 衛 市 原 繁
常務理事	泉 水 堯 和	染 谷 栄 一	豊 廣 利 通
理 事	川 野 正 夫 仲 澤 まさ乃 岸 本 健 一 神 林 保 夫 鳥 羽 達三郎 平 野 重 雄 中 島 雫 子 小 菅 一 雄 小 齊 藤 吉 永 渡 辺 一 雄 市 村 友 衛	市 原 繁 六 川 カホル 伊 藤 紫 朗 神 林 保 夫 鳥 羽 達三郎 平 野 重 雄 中 島 雫 子 小 菅 一 雄 小 齊 藤 吉 永 松 崎 良太郎 豊 廣 利 通	六 川 カホル 山 口 傳三郎 神 林 保 夫 鳥 羽 達三郎 小 山 繁 中 島 雫 子 小 菅 一 雄 吉 野 一 實 小 齊 藤 吉 永 恩 田 三 郎 藍 原 住 光
監 事	長谷川 強 海 津 金 信	今 井 実 渡 辺 一 雄	今 井 実 山 澤 治 明

役 職	平成 4 年	平成 6 年	平成 8 年 (創立 40 年)
会 長	根 本 三 郎	市 村 友 衛	市 村 友 衛
副 会 長	市 村 友 衛 市 原 繁	市 原 繁 岡 田 や 急	恩 田 三 郎 六 川 カホル
常務理事	豊 廣 利 通	藍 原 住 光	—
理 事	恩 田 三 郎 六 川 カホル 吉 野 一 實 神 林 保 夫 中 島 雫 子 小 山 繁 小 菅 一 雄 小 齊 藤 吉 永 海老原 貴 夫 伊 藤 喜 治 藍 原 住 光	恩 田 三 郎 六 川 カホル 吉 野 一 實 神 林 保 夫 鬼 澤 喜 男 小 山 繁 小 菅 一 雄 小 齊 藤 吉 永 海老原 貴 夫 十 念 一 浩 吉 野 勇	小 竹 惠 子 酒 井 貞 夫 吉 野 一 實 岡 田 や 急 神 林 保 夫 鬼 澤 喜 男 伊 東 将 二 小 菅 一 雄 海老原 貴 夫 十 念 一 浩 岡 田 忠 惠 渡 辺 義 一
監 事	今 井 実 山 澤 治 明	今 井 実 山 澤 治 明	今 井 実 藍 原 住 光

役 職	平成 10 年	平成 12 年	平成 14 年
会 長	六 川 カホル	六 川 カホル	六 川 カホル
副 会 長	恩 田 三 郎 小 竹 惠 子	小 竹 惠 子 小 神 保 夫	小 竹 惠 子 小 神 保 夫
常務理事	—	池 田 圀 彦	鏑 木 原 明幸 (小笠原 英)
理 事	酒 井 貞 夫 横 尾 正 信 神 林 保 夫 岡 田 多 武 伊 鬼 十 男 伊 岡 浩 二 畔 並 惠 並 渡 義 司 高 木 一 木 辺 義 昭	横 尾 正 信 岡 田 多 武 伊 鬼 十 男 伊 岡 浩 二 畔 並 惠 並 渡 義 司 高 木 一 木 辺 義 昭	横 尾 正 信 岡 田 多 武 伊 鬼 十 男 伊 岡 浩 二 畔 並 惠 並 渡 義 司 高 木 一 木 辺 義 昭
監 事	藍 原 住 光 助 川 廣	藍 原 住 光 長谷川 裕 之	藍 原 住 光 長谷川 秀 夫

役 職	平成 16 年	平成 17 年 (合併時)	平成 17 年～ 現在
会 長	六 川 カホル	六 川 カホル	為 成 勝五郎
副 会 長	小 竹 惠 子 小 神 保 夫	小 竹 惠 子 小 神 保 夫	小 竹 惠 子 小 神 保 夫
常務理事	中 村 康 雄	中 村 康 雄	中 村 康 雄
理 事	横 尾 正 信 豊 野 公 喜 佐 鬼 棚 伊 岡 畔 為 吉 益 河 内 土 藤 田	横 尾 正 信 豊 野 公 喜 佐 鬼 棚 伊 岡 畔 為 吉 益 河 内 土 藤 田	須 藤 東 二 妹 尾 桂 子 佐 野 公 喜 鈴 木 美 岐 伊 東 将 喜 鬼 棚 澤 喜 寺 嶋 雄 畔 高 佳 松 永 敦 倉 持 一 小 池 司 鈴 木 靖 小 永 彌 倉 持 次 小 池 郎
監 事	藍 原 住 光 長谷川 秀 夫	藍 原 住 光 長谷川 秀 夫	榊 隆 夫 長谷川 秀 夫

●旧沼南町社会福祉協議会歴代役員

役 職	昭和 60 年 (法人取得時)	平成 3 年	平成 8 年
会 長	相 馬 正 義	富 澤 正 男	富 澤 正 男
副 会 長	森 賢 治 村 田 秀 夫	勝 矢 孝 雄 石 戸 勝 男	佐 藤 輝 子 寺 田 治 雄
理 事	恩 田 儀 一 小 川 豊 吉 山 田 八重子 吉 田 恵 次 荒 木 順 二 佐 藤 嘉 宇 平 石 原 幸 一 子 岩 田 澤 恵 子 富 中 台 恭 平 中 森 弥 裕 一	中 島 勘一良 座 間 重 山 田 八重子 大 宮 茂 男 星 野 静 夫 佐 藤 嘉 二 石 井 紋 四 郎 岩 田 幸 一 岡 田 久美子 坂 卷 清 隆 中 森 弥 裕 一	八 木 鈴 子 中 村 裕 荒 木 順 川 上 かよ 森 上 武 佐 藤 嘉 二 横 塚 光 石 井 紋 四 郎 岩 田 幸 一 子 森 好 子 湯 浅 武 友 成 邦 子
監 事	渡 来 武 治 栗 原 和 夫	染 谷 大 広 瀬 崇	勝 矢 孝 雄 山 口 一

役 職	平成 13 年	平成 17 年 (解散時)
会 長	勝 矢 孝 雄	勝 矢 孝 雄
副 会 長	座 間 久 須 藤 東 二	小 林 辰 夫 須 藤 東 二
理 事	石 崎 幸 子 中 村 裕 坂 卷 哲 也 荒 木 順 子 平 綾 子 坂 卷 政 子 米野井 正 和 佐 藤 嘉 二 横 塚 光 夫 勝 矢 秀 夫 岩 田 幸 一 子 森 好 子	石 崎 幸 子 中 村 裕 相 馬 義 昭 矢 作 俊 道 平 綾 子 坂 卷 政 子 米野井 正 和 佐 藤 嘉 二 山 木 健 一 勝 矢 秀 夫 林 代 吉 森 好 子
監 事	落 合 敏 夫 山 口 一	落 合 敏 夫 落 合 啓 次



柏市の概要

柏市の概要

1. 沿革

柏市は北総台地の中央に位置し、東京都心から30km圏内の、利根川と手賀沼に隣接した都市です。この地方の集落の発生は、市内に分布する遺跡から、旧石器時代の紀元前3万年から1万年頃までさかのぼりを確認することができます。

その後、縄文、弥生、古墳時代へと移行する各遺跡も近辺に無数に点在することから、「柏」は古代人にとってまことに暮らしやすい風土であったことがうかがわれます。

明治22(1889)年4月1日、近代的な地方自治制度である「市制・町村制」が施行されました。これに伴い、教育・徴税・土木・救済・戸籍の事務管理ができる規模として約300～500戸を標準に、全国で町村合併が実施されました。この「明治の大合併」により、全国の町村数は約5分の1に減りました。

旧柏市域では明治22年、柏村を含む5か村が合併して千代田村が発足し、豊四季村とのあいだに千代田村・豊四季村組合を組織しました。また、8か村が合併して田中村が発足し、十余二村との間に田中村・十余二村組合を組織。同年、富勢村、土村も発足しました。そして25年後の大正3(1914)年、千代田村が豊四季村を、田中村が十余二村を編入しています。

この時期、旧柏市域は鉄道網の整備とともに変貌をとげました。明治29(1896)年に日本鉄道土浦線(田端～土浦間)が開業し、柏駅が設置され、明治44(1911)年には千葉県営軽便鉄道(柏～野田町間)が開業しました。さらに大正12(1923)年に北総鉄道(柏～船橋間)が開業され、柏は鉄道交通の拠点として成長していきました。

昭和28(1953)年に町村合併促進法が施行。これに基づく昭和の大合併は、新制中学校・市町村消防・自治体警察・社会福祉・保健衛生などの行政事務を能率的に処理するため、人口規模8,000人を標準とし、町村数を3分の1に減らすことを目途に実施されました。

昭和29(1954)年9月1日、柏町・土村・田中村・小金町が合併して「東葛市」が誕生しました。新市名は、この地区が東葛飾郡の中央部に位置していることから付けられたものです。しかし、小金町は松戸との結びつきが強く、同年10月15日に小金町域は一部を残して松戸市に移管されました。また、柏町と我孫子町への分村合併を模索していた富勢村は、東葛市に加わることができずにいました。新市発足から2か月後の同年11月1日に富勢村が廃止され、その一部が東葛市に合併しています。このように情勢が大きく変化したため、昭和29年11月15日、市名を「柏市」に改称し、結束の強化を図りました。

以後、柏市は新市発展の土台づくりを着々と進めていきました。市制施行当時約4万人だった柏市の人口も、光ヶ丘団地・豊四季台団地などの大型団地が建設され、

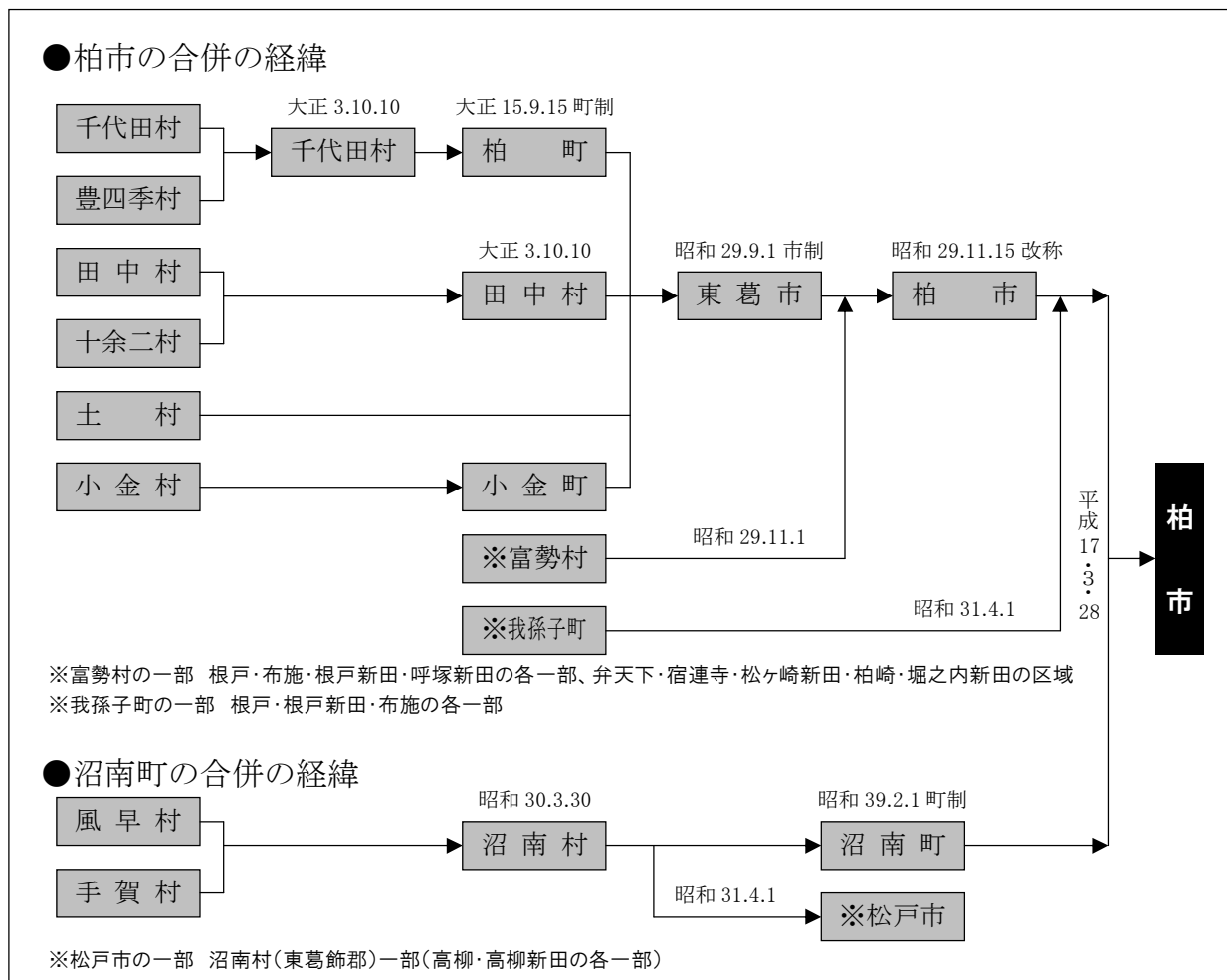
急速に人口が増えていきました。昭和40年代には柏駅前再開発事業を実施。国鉄常磐線の複々線開通や快速停車、柏駅東口に日本初のペデストリアンデッキ（ダブルデッキ）完成、大型百貨店の開業などにより、県北西部の中心地として大きく飛躍していくこととなりました。

一方、旧沼南町地域では、明治22（1889）年3月、町村制施行により手賀村と風早村が成立しました。手賀村は人々の暮らしに大きな影響を与え続けた手賀沼沿岸に位置することから、風早村はかつて付近に存在した風早荘からそれぞれ命名されました。

昭和30（1955）年3月30日、手賀村と風早村が合併し、「沼南村」が誕生しました。村名は一般公募され、手賀沼の南岸に位置していることから名付けられました。そして昭和39（1964）年2月には町制が施行され、人口1万6千人の「沼南町」が誕生しています。

昭和40年代以降は、柏市・松戸市が首都圏のベッドタウンとして発展する一方、沼南町でも町の骨格をなす国道16号や県道船橋・我孫子線の整備、住宅団地の建設、工業団地の造成と企業誘致などが着々と進められました。そして沼南地域はめざましい変貌をとげ、県内有数の町へと発展していきました。

平成17年3月には、市町村の合併の特例に関する法律に基づき、柏市と沼南町が合併し、新市「柏市」が誕生しました。



2. 位置と地形

(1) 概況

柏市は千葉県北西部に位置し、市域は南北約15キロメートル、東西約18キロメートルにわたります。市の東は、手賀沼を挟んで我孫子市・印西市に接し、南は白井市・鎌ヶ谷市・松戸市に、西は流山市に、北は利根運河を境として野田市、利根川を境に茨城県守谷市・取手市に接しています。地勢はおおむね平坦で、下総台地の広い台地上を中心に、市街地や里山が形成されています。

市の規模は、人口が約38万人、世帯数は14万世帯を超えています。面積は約115平方キロメートルで、地目別では田畑と宅地の比率が同程度で約28パーセントずつとなっています。

市内では、商業・工業・農業を中心としたさまざまな産業活動が活発に行われています。柏駅周辺は、東葛飾地域に加え茨城県南部も商圏に含むなど、多くの人々が訪れる商業の拠点となっています。国道16号沿線には工業や物流加工機能が集積しています。北部地域では平成17年につくばエクスプレスが開業し、市内に「柏の葉キャンパス駅」と「柏たなか駅」の2つの新駅が誕生しました。さらに、東京大学や千葉大学、東葛テクノプラザなど、高い専門性を有する大学や研究機関等も数多く、先端的な学術研究や産学官連携の拠点として整備が進んでいます。また、手賀沼や大津川周辺、利根川沿岸は農業が盛んで、豊かな自然や肥沃な農地が広がっています。

(2) 位置と地形

- ・位置 [極東] 東経 140° 6' 55" (柏市布施新田地先)
- [極西] 東経 139° 54' 59" (柏市西原一丁目地先)
- [極南] 北緯 35° 47' 43" (柏市藤ヶ谷地先)
- [極北] 北緯 35° 55' 58" (柏市船戸山高野字江川地先)
- ・標高 [最高] 約 32m (柏市南増尾周辺)
- [最低] 約 0m (柏市水道橋周辺))
- ・面積 114.9km²

項目	数値
人口(人)	381,387
世帯数(世帯)	144,567

※平成18年4月1日現在




※概況は「市政概要」より許可を得て転載



柏市社会福祉協議会のあゆみ








柏市社会福祉協議会のあゆみ

年度	柏市社会福祉協議会のあゆみ	柏市及び社会の動向
昭和 31 (1956)	6月 柏市社会福祉協議会結成準備委員会発足	4月 国道6号(呼塚-小金間)が通行開始
	7月 柏市社会福祉協議会創立総会開催 柏市社会福祉協議会が発足 初代会長に松崎良太郎氏就任 会員200人・会費1人30円	12月 柏駅西口を開設
	9月 老人慰問実施(9地区)	3月 光ヶ丘団地の入居開始
	10月 季節保育所開所(11月閉所)	 初代会長 松崎良太郎氏
昭和 32 (1957)	5月 総会開催	11月 柏市傷痍軍人会結成発起人会開催
	7月 柏市社会福祉協議会社会福祉地区を設定	12月 国道6号(小金-青山間)が全線開通
	9月 敬老会開催(10地区)	1月 柏電報電話局が開局(ダイヤル式通話となる)
昭和 33 (1958)	5月 総会開催	3月 「柏市敬老年金給付条例」公布
	9月 敬老会開催(10地区)	4月 柏市身体障害者福祉会創立
		5月 敬老年金の給付開始
昭和 34 (1959)	8月 代議員会開催	11月 濱嶋千代丸氏が2代目市長に就任
	9月 組織拡充計画を立て会員募集に着手	11月 「柏市母子福祉資金貸付条例」公布
	10月 老人慰安会開催(4地区)	12月 豊四季光風園落成式
昭和 35 (1960)	6月 代議員会開催	12月 柏市母子福祉推進員協議会発足
	10月 老人慰安会開催(4地区)	4月 公共下水道事業を開始
昭和 36 (1961)	6月 代議員会開催	3月 「精神薄弱者福祉法」制定
	8月 心配ごと相談所開設	1月 第1回元旦マラソンを開催
	10月 老人慰安会開催(5地区)	1月 中央公民館(現アミュゼ柏)がオープン
昭和 37 (1962)	8月 代議員会開催	10月 手足の不自由な子供を守る会発足
	9月 結婚50年老人世帯調査実施	3月 柏第三小学校に市内の小中学校で初の屋内体育館が完成
	9月 老人慰安会開催(5地区)	

年度	柏市社会福祉協議会のあゆみ	柏市及び社会の動向
昭和 38 (1963)	6月 代議員会開催	4月 老人クラブ連合会発足
	6月 子供大会開催	4月 柏市手足の不自由な子供を育てる会結成
	9月 結婚50年記念品贈呈式開催	6月 柏市民会館がオープン
	10月 老人クラブ代表者会議開催	7月 「老人福祉法」制定
	12月 市内要保護世帯調査実施	
昭和 39 (1964)	4月 老人クラブ連合会開催	4月 豊四季台団地の入居開始
	7月 定例総会開催	4月 県東葛飾支庁が松戸市に開庁
	9月 結婚50周年記念品贈呈式開催	7月 「母子及び寡婦福祉法」制定
	9月 敬老会開催（4地区）	10月 オリンピック東京大会開催
	3月 世帯更生資金滞納世帯相談会開催	11月 市の人口10万人を突破
昭和 40 (1965)	4月 会員5,400人・会費1人50円に改正	2月 市制施行10周年記念式典
	9月 結婚50周年記念祝賀会開催	2月 市役所庁舎(現第一庁舎)が竣工
		8月 「母子保健法」制定
昭和 41 (1966)	7月 総会開催	8月 東葛地区更生保護婦人会発会式
	9月 結婚50周年記念祝賀会開催	1月 母子福祉推進員決定
	10月 敬老会開催	5月 柏保健所開設
		8月 船橋市社会福祉協議会法人化
		8月 国道16号(柏五小-若柴間)の第一期工事完了
昭和 42 (1967)	6月 老人福祉のための浪曲大会開催	9月 初の「敬老の日」
	8月 総会開催	11月 山澤諒太郎氏が3代目市長に就任
	9月 結婚相談所開設	11月 肢体不自由児訓練施設柏市簡易マザーズホーム開所式
	9月 結婚50周年記念祝賀会開催	1月 言語障害児をもつ親の会結成
	9月 敬老会開催（4地区）	3月 千葉市社会福祉協議会法人化
	3月 我孫子市社会福祉協議会法人化	
	4月 「柏市身体障害児童福祉手当支給条例」公布	
	11月 「手をつなぐ親の会」、柏市福祉センター開所式(布施)	
	12月 習志野市社会福祉協議会法人化	
	1月 市川市社会福祉協議会法人化	
	3月 目の不自由な人のための「声の広報」始まる	
	3月 松戸市社会福祉協議会法人化	
	3月 市原市社会福祉協議会法人化	

年度	柏市社会福祉協議会のあゆみ	柏市及び社会の動向
昭和 43 (1968)	8月 総会開催 9月 結婚50周年記念祝賀会開催 9月 敬老会開催（4地区）	7月 県の人口300万人を突破 12月 柏市民生委員協議会発足 12月 東京府中市で3億円強盗事件発生
昭和 44 (1969)	9月 総会開催 9月 結婚50周年記念祝賀会開催 9月 敬老会開催（5地区）	4月 交通遺児手当の受付始まる 6月 八千代市社会福祉協議会法人化 7月 「柏市社会福祉センターの設置及び管理等に関する条例」公布 7月 「柏市交通遺児手当基金に関する条例」公布 7月 柏市社会福祉センター開所 7月 米、有人宇宙船アポロ11号、初めて月面に到着 9月 鎌ヶ谷市社会福祉協議会法人化 3月 大阪で万国博覧会開催
昭和 45 (1970)	4月 東葛飾地区社会福祉協議会連絡会発足 9月 総会開催 9月 結婚50周年記念祝賀会開催 10月 敬老会開催（6地区）	4月 国道16号（野田 - 千葉間）が全線開通 5月 「心身障害者対策基本法」制定 8月 市の人口15万人を突破 11月 市の木に「カンワ」を選定 1月 身障者家庭奉仕員制度発足
昭和 46 (1971)	7月 総会開催 9月 柏市社会福祉協議会法人設立発起人会開催 9月 結婚50周年記念祝賀会開催 9月 敬老会開催（7地区） 11月 東葛飾地区心配ごと相談所研究協議会開催 2月 柏市社会福祉協議会が社会福祉法人として認可	4月 柏商工会が解散し、柏市商工会議所が発足 4月 柏駅の橋上駅舎が完成 4月 常磐線複々線化が開通、営団地下鉄千代田線の乗り入れを開始 4月 北柏駅が開設 5月 「児童手当法」公布 11月 県柏児童相談所開所 2月 冬季オリンピック札幌大会開催 3月 「柏市老人いこいの家設置及び管理に関する条例」公布 3月 「柏市精神薄弱児通園施設設置及び管理に関する条例」公布

年度	柏市社会福祉協議会のあゆみ	柏市及び社会の動向
昭和 47 (1972)	6月 地域福祉相談員連絡会議開催 9月 結婚50周年記念祝賀会開催 9月 敬老会開催（6地区）  柏市民文化会館	4月 精神薄弱児通園施設「十余二学園」が開園 5月 沖縄、27年ぶりに本土復帰（沖縄県発足） 10月 柏市民文化会館がオープン 12月 「柏市老人医療費の支給に関する条例」公布 3月 「柏市重度心身障害者福祉手当支給条例」公布 3月 「柏市肢体不自由児通園施設設置及び管理等に関する条例」公布 3月 「柏市老人医療費の支給に関する条例施行規則」制定
昭和 48 (1973)	9月 会費徴収説明会開催（6地区） 9月 結婚50周年記念祝賀会開催 9月 敬老会開催（6地区）  第2代会長 渡部豊夫氏	4月 肢体不自由児通園施設「柏育成園」開園 6月 千代田近隣センターがオープン 10月 柏駅東口市街地再開発事業が完工 10月 「柏市重度心身障害者医療費の支給に関する条例」公布 11月 老人福祉バス「柏寿号」購入、翌月から運行開始 12月 野田市社会福祉協議会法人化
昭和 49 (1974)	7月 第2代会長に渡部豊夫氏就任 9月 結婚50周年記念祝賀会開催 9月 敬老会開催 10月 ふくし広報「社福かしわ」創刊号発行 12月 第1回柏市歳末助けあいチャリティーショー開催 2月 第1回住民福祉大会開催 3月 第1回市民大バザール大会開催  第1回市民大バザール	4月 「柏市社会福祉事業基金条例」公布 4月 「柏市立精神薄弱者通所授産施設設置及び管理に関する条例」公布 6月 精神薄弱者授産施設「青和園」開園 6月 「柏市老人福祉センターの設置及び管理に関する条例」公布 8月 老人福祉センター「柏寿荘」オープン 9月 柏市ろう者福祉会結成総会 10月 県の人口400万人を突破 11月 市制施行20周年記念式典挙行

年度	柏市社会福祉協議会のあゆみ	柏市及び社会の動向
昭和 50 (1975)	4月 柏市社会福祉協議会事業運営基金を設置 7月 住民福祉活動の組織化(町会長等を市社協支部長に) 8月 母子家庭レクリエーション大会開催(千葉県こどもの国) 9月 ボランティアスクール開催 10月 第1回支部長会議開催  <p style="text-align: center;">第1回支部長会議</p>	4月 旭町近隣センターがオープン 4月 重度視覚障害者のための「声の広報」始まる 4月 柏育成園特殊学級開級式 5月 市の人口20万人を突破 12月 「柏市社会福祉法人の助成に関する条例」公布 3月 市立図書館(本館)がオープン 3月 「柏市児童福祉手当支給条例を廃止する条例」公布 3月 軽費老人ホーム「望陽荘」落成式
昭和 51 (1976)	7月 青少年ボランティアスクール開催 11月 第1回住民福祉シンポジウム開催 3月 奉仕活動センター(善意銀行)の開設  <p style="text-align: center;">ボランティアスクール</p>	4月 社会福祉法人おお田保育園開園 4月 手話サークル「かしわの会」発足 6月 柏市中心身障害者福祉連絡協議会発足 7月 柏寿荘への老人専用巡回バス「おぞら号」運行開始 9月 柏地区BBS会発足 11月 流山市社会福祉協議会法人化
昭和 52 (1977)	8月 千葉県地域ぐるみ福祉活動モデル地区に指定 2月 地域ぐるみブロック別懇談会開催(9地区)  <p style="text-align: center;">活動を誓うボランティア</p>	4月 特別養護老人ホーム「望陽荘」開設 4月 市民体育館・保健センターがオープン 5月 十余二学園に幼児言語指導教室を開設 6月 厚生省、平均寿命世界一と発表 8月 米軍通信所の一部95haの返還を開始 8月 独居老人15世帯に福祉電話を設置 10月 点訳サークル「いなほ会」、市民便利帳の点訳版を完成 2月 小田急・千代田線が相互乗り入れを開始


※昭和50年度以後は、新規事業を中心に記載し、恒例事業については掲載していません。


年度	柏市社会福祉協議会のあゆみ	柏市及び社会の動向
昭和 53 (1978)	5月 「シルバーシティープラン都市」に指定される 老人給食サービス・国際理解教室・愛の文通・敬老の集い・シルバーリーダー育成・啓蒙運動・老人意識調査 7月 シルバーリーダー募集 7月 国際理解教室開催 9月 身体障害者自動車運転免許技能取得制度始まる 9月 交通遺児家庭激励会開催 10月 独居老人への給食サービス開始 11月 敬老の集い(後「ふれあいの集い」に改称)開催(10地区) 11月 千葉県社会福祉大会において、柏市社協が千葉県社協会長表彰を受賞 11月 第1回柏市心身障害者(児)スポーツ大会開催 11月 第1回シルバーボランティアスクール開設 12月 愛の文通始める(学生と市内独居老人) 3月 第1回シルバーサークル活動合同発表会開催 3月 愛の文通交流会開催(成田山)	4月 市立柏高等学校が開校 5月 盲人ガイドヘルパー制度を導入 5月 柏寿荘老人福祉相談始まる 5月 「シルバーシティープラン都市」に指定され推進協議会を結成 5月 老人福祉バス「はくよう号」運行開始 5月 新東京国際空港開港 7月 柏商業まつりを「柏まつり」として開催 8月 身障者や寝たきり老人の足に特殊車「シルバー号」配備 9月 市、身体障害者用自動車運転免許取得専用車を購入 9月 第1回柏市高齢者ゲートボール競技大会開催 11月 鈴木真氏が4代目市長に就任 3月 南部近隣センターがオープン 3月 豊四季台近隣センターがオープン <div data-bbox="1050 1205 1374 1473" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1098 1473 1326 1507">身障者スポーツ大会</p>
昭和 54 (1979)	5月 福祉関係者ブロック別懇談会開催(10地区) 7月 国際児童年記念写真展開催(10地区) 9月 ボランティア教養講座開催 10月 国際児童年記念シンポジウム開催 11月 国際児童年記念地域懇談会開催(10地区)	4月 国際児童年記念事業開催 4月 西原近隣センターがオープン 4月 田中近隣センターがオープン 5月 第1回柏市シルバー運動会開催 6月 老人意識調査結果まとまる 8月 旧米軍柏通信所跡地全面返還 9月 消防本部新庁舎が完成 9月 柏市教育福祉会館建設着工 11月 市制施行25周年記念式典挙行



年度	柏市社会福祉協議会のあゆみ	柏市及び社会の動向
昭和 55 (1980)	<p>4月 福祉教育指定校制度始まる</p> <p>11月 全国社会福祉大会において、柏市社協が全国社協会長表彰を受賞</p> <div data-bbox="467 443 778 703" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">全社協会長表彰</p>	<p>4月 光ヶ丘老人憩いの家開設</p> <p>4月 朗読奉仕サークル発足</p> <p>4月 永楽台近隣センターがオープン</p> <p>4月 新大利根橋有料道路が開通</p> <p>4月 布施近隣センターがオープン</p> <p>5月 柏市高齢者事業団の作業所完成</p> <p>8月 柏市高齢者事業団設立・9月法人化</p> <p>10月 県東葛飾地区身障者スポーツ大会開催 (会場 柏市)</p>
昭和 56 (1981)	<p>4月 柏市教育福祉会館がオープンし、柏市社協事務所が同館内に移転</p> <p>4月 中央老人福祉センター管理運営受託</p> <p>5月 普通会費 一世帯80円に改正</p> <p>5月 交通遺児等援護基金事業開始</p> <p>10月 国際障害者年記念障害者(児)作品展「ともしび広場」開催</p> <p>12月 国際障害者年記念クリスマス交流会開催</p> <p>1月 国際障害者年記念福祉講演会「これからの福祉社会について」開催</p> <p>3月 国際障害者年記念みんな仲間のつどい開催</p> <p>3月 国際障害者年記念ポスター展開催</p> <p>3月 国際障害者年記念パネルディスカッション開催</p> <div data-bbox="445 1700 794 1935" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">柏市教育福祉会館がオープン</p>	<p>4月 柏市第2次総合計画がスタート</p> <p>4月 柏市教育福祉会館開館</p> <p>4月 県立柏養護学校開校</p> <p>4月 デイサービス事業開始</p> <p>4月 増尾近隣センターがオープン</p> <p>4月 常磐自動車道(柏 - 谷田部間)が開通</p> <p>5月 「障害に関する用語の整理のための医師法等の一部を改正する法律」公布</p> <p>5月 市立図書館、重度身障者への図書郵送貸出し開始</p> <p>5月 柏シルバー学園大学院設立開校式開催</p> <p>7月 自動車燃料費助成事業実施</p> <p>7月 「障害者福祉都市推進事業」実施の指定(国)を受ける</p> <p>10月 車いす用公衆電話ボックス(2台)を教育福祉会館前に設置(県内では市川市に次いで2番目)</p>

年度	柏市社会福祉協議会のあゆみ	柏市及び社会の動向
昭和 57 (1982)	<p>4月 普通会費 1 世帯 1 0 0 円に改正</p> <p>7月 第 3 代会長に松崎良太郎氏就任</p> <p>7月 柏市・トーランス市姉妹都市委員会から柏市社協が感謝状を贈呈される</p> <p>9月 市町村社協法制化運動 署名人数 13, 289 人</p> <p>10月 住民福祉講演会「地域福祉を考える」開催</p> <p>11月 第 1 回かしわっ葉福祉まつり開催</p> <p>3月 福祉映画会開催「典子は今」を上映</p> <div data-bbox="371 965 791 1240" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="427 1240 746 1272">第 1 回かしわっ葉福祉まつり</p>	<p>4月 5 0 0 円硬貨発行</p> <p>4月 地域福祉センターを夜間開放(午後 5 時から 9 時迄)</p> <p>4月 心身障害児(者)巡回療育相談事業開始</p> <p>4月 光ヶ丘近隣センターがオープン</p> <p>4月 新富近隣センターがオープン</p> <p>4月 市の人口 2 5 万人を突破</p> <p>6月 千葉県地域ぐるみ福祉振興基金の開始</p> <p>7月 柏税務署開設(3市2町を所管)</p> <p>7月 浦安市社会福祉協議会法人化</p> <p>8月 テレ・メール(聴覚障害者用手書き電話)の設置</p> <p>8月 市役所新庁舎(第二庁舎)を開庁</p> <p>8月 福祉バス「ふるさと号」の購入</p> <p>9月 デイサービス送迎用バス「ひまわり号」の設置</p> <p>2月 「老人福祉法」施行</p> <p>2月 第 1 回老人クラブ大会開催</p> <p>3月 「災害弔慰金支給等に関する条例」公布、災害障害見舞金の設置</p>
昭和 58 (1983)	<p>4月 第 1 回柏ことぶきゲートボール大会開催</p> <p>6月 第 1 回ふれあいバスツアー開催(木更津)</p> <p>8月 青少年ボランティアワークキャンプ開催</p> <p>10月 市町村社協法制化実現</p> <div data-bbox="445 1675 796 1962" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="445 1962 834 1993">第 1 回柏ことぶきゲートボール大会</p>	<p>4月 特別養護老人ホーム「八幡苑」開園</p> <p>4月 富里近隣センターがオープン</p> <p>4月 高田近隣センターがオープン</p> <p>7月 障害者喫茶コーナー「柏っ葉」がオープン</p> <p>7月 東武野田線に新柏駅開設</p> <p>9月 根戸近隣センターがオープン</p> <p>9月 県の人口 5 0 0 万人を突破</p> <p>11月 中国河北省承德市と友好都市を提携</p> <p>12月 車いす用階段昇降機購入(2基)</p>

年度	柏市社会福祉協議会のあゆみ	柏市及び社会の動向
昭和 59 (1984)	<p>4月 「社会福祉協議会強化計画」(3か年計画)を策定</p> <p>10月 独居老人を囲む会開催(15地区)</p>  <p style="text-align: center;">独居老人を囲む会</p>	<p>5月 手話通訳者派遣事業実施</p> <p>6月 市制施行30周年記念三世代運動会開催</p> <p>10月 新田原近隣センターがオープン</p> <p>10月 市制施行30周年記念ゲートボール大会開催</p> <p>10月 老人意識調査を実施</p> <p>10月 柏寿荘開館10周年記念柏寿荘まつり開催</p> <p>11月 市制施行30周年記念式典挙行</p> <p>1月 常磐自動車道、首都高速6号線が同時開通</p>
昭和 60 (1985)	<p>4月 ボランティア連協10周年記念全体会・記念講演 「施設とボランティアの関わり」</p> <p>5月 ボランティア連協10周年記念実行委員会発足</p> <p>9月 第1回「福祉の心」作品展開催</p> <p>10月 ボランティア連協10周年記念ボランティア活動PRパネル展開催(6か所)</p> <p>12月 ボランティア連協10周年記念講演会開催 「ボランティア昨日・今日・明日」</p> <p>2月 ボランティア連協10周年記念誌「手に手をとって」発刊</p> <p>3月 ボランティア連協10周年記念講演会開催 「ボケについて」</p>	<p>7月 南部運動場を開設</p> <p>7月 十余二にシルバーふれあい広場がオープン</p> <p>11月 沼南町社会福祉協議会法人化</p>   <p style="text-align: center;">老人ホームを訪問するボランティア</p>
昭和 61 (1986)	<p>9月 「地域ぐるみ福祉ネットワーク事業」スタート</p> <p>11月 創立30周年記念第13回柏市住民福祉大会開催</p> <p>2月 創立30周年記念誌を発刊</p>	<p>5月 知的障害者通所授産施設「朋生園」開園</p> <p>8月 福祉バス「おおぞら号」購入</p> <p>3月 アメニティタウン計画を策定</p>

年度	柏市社会福祉協議会のあゆみ	柏市及び社会の動向
昭和 62 (1987)	<p>7月 一円玉募金運動標語最優秀作品決定 「一円を活かして築く福祉の輪」</p>  <p>1円玉募金 PR ポスター</p> <p>7月 基本福祉圏地域ぐるみ福祉ネットワーク事業推進委員会設立会議開催</p> <p>11月 ひとりぐらし老人の集い開催(15地区)</p> <p>1月 小域福祉圏地域ぐるみ福祉ネットワーク事業推進委員会設立要請会議開催</p>	<p>4月 国鉄が分割・民営化され、「JR」発足</p> <p>4月 東京慈恵会医科大学附属柏病院が開院</p> <p>5月 保健勤労会館がオープン</p> <p>5月 「社会福祉士及び介護福祉士法」公布</p> <p>8月 利根川治水100年記念として手賀沼花火大会を開催</p> <p>10月 松葉近隣センターがオープン</p> <p>10月 藤心近隣センターがオープン</p>  <p>手賀沼花火大会</p>
昭和 63 (1988)	<p>4月 小域福祉圏地域ぐるみ福祉ネットワーク事業本格始動</p> <p>5月 ボランティア養成講座開催</p> <p>7月 第4代会長に根本三郎氏就任</p> <p>7月 地域ボランティア講座開催(3地区)</p> <p>10月 一人暮らしの方を対象に、柏中央地区をモデル地区として配食サービスを開始</p> <p>10月 ふれあいの集い開催(16地区)</p> <p>11月 地域ぐるみ福祉のまちづくり推進月間キャンペーン実施</p> <p>3月 ボランティア教室開催</p> <p>3月 中級ボランティア講座開催</p>	<p>4月 青少年センターがオープン</p> <p>4月 瀬戸大橋開通</p> <p>5月 青函トンネル開業</p> <p>6月 医療センター365日夜間診療体制発足</p> <p>3月 市立柏高校が春の選抜高校野球大会に初出場</p>  <p>第4代会長 根本三郎氏</p>

年度	柏市社会福祉協議会のあゆみ	柏市及び社会の動向
平成元 (1989)	4月 柏市ボランティア連絡会発足 4月 ボランティア相談室開設 5月 地域ボランティア講座開催 7月 ねたきり老人おむつ助成事業開始(年3回助成) 2月 中級ボランティア講座開催 3月 高校生ボランティア講座開催	4月 市の人口30万人を突破 5月 手話通訳者設置事業を開始 7月 市制35周年・人口30万人都市記念のシンポジウム開催 11月 市制施行35周年記念式典挙行 12月 緊急通報システム導入
平成2 (1990)	6月 老人介護講座開催 10月 福祉カー「ゆうあい号」の貸出し事業開始 2月 青少年ボランティア講座開催 3月 青少年ワークキャンプ開催 3月 教養講座開催	4月 医療センター24時間急病診療を開始 4月 酒井根近隣センターがオープン 4月 北部近隣センターがオープン 6月 「老人福祉法等福祉八法改正法」公布 3月 常磐新線第3セクターが創立 3月 船戸山高野に清掃工場が完成
平成3 (1991)	5月 在宅ホームヘルプサービス協力員養成講座開催 10月 住民参加型有償在宅福祉サービス「さわやかサービス」利用会員・協力会員の受付開始 11月 福祉ボランティアまつり開催	4月 柏県税事務所がオープン 4月 柏市第3次総合計画スタート 10月 在宅心身障害者(児)一時介護委託料助成事業を開始 11月 ふるさと21健康長寿のまちづくり基本計画検討委員会発足 11月 アメリカ合衆国准州グアムと友好都市提携 1月 成人病の健康診査に登録制導入
平成4 (1992)	5月 在宅ホームヘルプサービス協力員養成講座開催  愛の文通交流会	7月 国立がんセンター東病院開院 7月 バルセロナオリンピックに柏から4人の選手が出場 11月 市の施設が完全週休二日制移行

年度	柏市社会福祉協議会のあゆみ	柏市及び社会の動向
平成 5 (1993)	5月 さわやかサービス協力員養成講座開催  在宅福祉サービス養成講座	7月 柏市立病院が開院 11月 南部老人福祉センターがオープン 11月 本多晃氏が5代目市長に就任 12月 「心身障害者対策基本法」が「障害者基本法」に改正される 1月 主任児童委員を設置 3月 政治改革法が成立。衆議院議員の選挙区が、中選挙区から小選挙区と比例代表の並立制となる 3月 柏市老人福祉計画を策定 3月 柏市保健医療計画を策定
平成 6 (1994)	4月 生活福祉資金貸付事業活性化モデル事業指定(県社協) 4月 地域福祉活動計画策定に着手 7月 第5代会長に市村友衛氏就任 3月 会費等財政検討委員会設置 3月 高校生ワークキャンプ開催  第5代会長 市村友衛氏	4月 市役所内に「すこやか相談窓口」を設置 4月 財団法人柏市福祉公社を設立 4月 南部在宅介護支援センターを開設 4月 高齢者在宅改造費助成事業を開始 11月 あげぼの山農業公園が全面オープン 11月 子育て支援事業を開始 11月 柏レイソルのJリーグ昇格が決定 11月 市制施行40周年記念式典挙行 1月 阪神・淡路大震災発生 1月 被災地である神戸市・芦屋市に市職員を派遣
平成 7 (1995)	4月 市町村ボランティアセンター活動事業指定(国) 4月 会費等財政検討委員会開催(4回開催) 1月 お父さんボランティア講座開催 2月 地域ボランティア講座開催 3月 「ボランティアセンターだより」創刊号発行 3月 高校生ワークキャンプ開催	10月 柏市・我孫子市・沼南町で第1回手賀沼マラソンを実施 10月 重度身体障害者の訪問入浴サービス事業を開始 11月 ウイングホール柏斎場がオープン 2月 市立砂川美術工芸館がオープン

年度	柏市社会福祉協議会のあゆみ	柏市及び社会の動向
平成 8 (1996)	<p>4月 地域福祉活動組織が16地区から19地区に細分化</p> <p>4月 紙おむつ助成事業が現物助成から現金助成に変更</p> <p>6月 小域福祉圏地域ぐるみ福祉ネットワーク事業推進委員会連絡会議開催 「地域福祉活動の活性化に伴い、敬老会・ふれあいの集い・ひとりぐらし老人の集い・地域福祉事業の4事業を一本化し、地区主体による事業展開を図る」</p> <p>7月 柏市社協創立40周年</p> <p>10月 会費等財政検討委員会委員長から柏市社協会長に答申 「平成9年度から普通会費を1世帯当たり200円に改定」</p> <p>10月 創立40周年記念第23回柏市住民福祉大会開催</p> <p>11月 代表地区長会議開催 「普通会費の改定」を協議</p>	<p>9月 送迎サービス事業を開始</p> <p>11月 さわやかちば県民プラザがオープン</p> <p>12月 配食サービス事業を開始</p> <p>12月 柏市民健康づくり審議会を設置</p> <p>12月 骨粗しょう症予防教室を開始</p> <p>12月 柏市福祉行政審議会を設置</p> <p>3月 ノーマライゼーションかしわプラン作成</p> <p>3月 柏警察署が移転</p>
平成 9 (1997)	<p>4月 普通会費を1世帯当たり200円に改定</p> <p>4月 老人福祉センター(柏寿荘)管理運営事業を受託</p> <p>7月 夏季ボランティア体験学習実施</p> <p>1月 小域福祉圏地域ぐるみ福祉ネットワーク事業推進委員会連絡会議開催 「地区社協移行に向けて協力依頼」</p> <p>2月 企業のための社会貢献活動講座開催</p> <p>3月 「地区社会福祉協議会設置規程」評議員会で承認</p>	<p>4月 柏市母子保健計画策定</p> <p>4月 妊婦、乳児一般健康診査、3歳児健康診査、新生児訪問指導事業を開始</p> <p>4月 子育てにこここ電話相談開設</p> <p>10月 「野田」ナンバーが誕生</p> <p>11月 健康情報データシステム導入</p> <p>12月 東京湾アクアラインが開通</p> <p>3月 柏市健康文化都市プラン策定</p>



柏市社協創立40周年記念
第23回柏市住民福祉大会

年度	柏市社会福祉協議会のあゆみ	柏市及び社会の動向
平成 10 (1998)	<p>4月 地区社会福祉協議会設置への移行開始</p> <p>4月 南部老人福祉センター管理運営事業を受託</p> <p>5月 「かしわっ葉福祉だより」創刊号発行</p> <p>6月 「柏市社協あんない」を全戸に配布</p> <p>7月 第6代会長に六川カホル氏就任</p> <p>7月 小学生夏休み手話教室開催</p> <p>12月 交通遺児家庭激励会開催</p> <p>1月 市内社会福祉貢献企業リスト作成</p> <div data-bbox="483 909 715 1245" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="443 1263 743 1294">第6代会長 六川カホル氏</p>	<p>4月 機構改革により保健衛生部と福祉部を統合</p> <p>4月 柏市民健康づくり推進員として健康づくり推進員と食生活推進員を設置</p> <p>4月 健康文化都市推進事業を開始</p> <p>4月 健康文化都市推進市民組織「3あいサポート柏」を設置</p> <p>4月 ホリデイサービス事業（老人デイサービス）を開始</p> <p>4月 誕生日検診（基本健康診査・乳がん検診・子宮がん検診）を導入</p> <p>4月 柏市保健医療審議会を設置</p> <p>7月 柏市老人保健施設「はみんぐ」がオープン</p> <p>3月 かしわ子どもプラン21策定</p> <div data-bbox="975 1055 1329 1283" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1054 1285 1246 1317">夏休み手話教室</p>
平成 11 (1999)	<p>4月 各老人福祉センターにて「いきいきカルチャー柏」開講</p> <p>7月 小学生夏休みボランティア教室開催</p> <p>10月 かしわ広域後見支援センター業務開始</p> <div data-bbox="371 1653 791 1933" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="459 1935 703 1966">いきいきカルチャー柏</p>	<p>4月 アミュゼ柏がオープン</p> <p>4月 JR柏駅南口が開設</p> <p>4月 柏ふるさと大橋が開通</p> <p>10月 柏市介護認定審査会を設置 要介護、要支援申請の受付を開始</p> <p>11月 柏レイソルがJリーグナビスコカップで初優勝</p> <p>3月 柏市高齢者いきいきプラン21を策定</p> <p>3月 「柏市介護保険条例」ほか関連2条例を制定</p>

年度	柏市社会福祉協議会のあゆみ	柏市及び社会の動向
平成 12 (2000)	<p>4月 高田小学校にて「世代間交流教室」始まる</p> <p>10月 かしわファミリー・サポート・センター事業開始</p> <p>10月 ファミリー・サポート・センター入会説明会開催(15回開催)</p> <p>12月 介護相談員派遣事業開始(介護相談員4名委嘱)</p> <p>12月 交通遺児・病气遺児家庭激励会開催</p> <p>1月 少子化対策臨時特例交付金事業・子育て支援啓発講演会開催</p> <p>2月 かしわファミリー・サポート・センター広報紙「ぞうさん通信」創刊号発行</p> <p>3月 柏市社協事務所が介護予防センターいきいきプラザ内に移転</p>	<p>4月 介護保険制度開始</p> <p>4月 市直営で基幹型在宅介護支援センター介護相談協力員(薬局)を設置</p> <p>7月 柏市福祉行政審議会と柏市保健医療審議会を統合し、柏市健康福祉審議会を設置</p> <p>8月 情報公開制度発足</p> <p>10月 市立介護老人保健施設「はみんぐ」に隣接してリハビリ広場完成</p> <p>1月 機構改革により、保健福祉部所管課の一部が児童家庭部として独立。併せて教育委員会所管であった子どもルーム関連事業が児童家庭部(児童育成課)に移管</p> <p>3月 介護予防センターいきいきプラザがオープン</p>
平成 13 (2001)	<p>4月 共同募金会柏市支会、柏市民生委員児童委員協議会、柏市老人クラブ連合会の事務局を柏市社協が運営</p> <p>5月 ボランティア育成講座開催</p> <p>5月 いきがい活動通所支援事業開始</p> <p>6月 地区社協・小域福祉圏連絡会議開催</p> <p>9月 介護予防事業始まる～高齢者対象パソコン教室・世代間交流事業・ボランティア育成講座～</p> <p>9月 地区社協会長等研修会(3回開催)</p> <p>10月 「ふれあいのまちづくり事業」の指定を受ける(国)</p> <p>10月 赤い羽根共同募金運動(街頭募金)実施</p> <p>10月 精神障害者福祉事業講演会開催</p> <p>3月 ふれあいのまちづくり推進会設置・開催</p>	<div data-bbox="951 1111 1347 1373" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="970 1384 1331 1417">介護予防センターいきいきプラザ</p> <p>4月 柏市第4次総合計画がスタート</p> <p>9月 アメリカで同時多発テロ発生</p> <p>10月 かしわインフォメーションセンターがオープン</p> <div data-bbox="1070 1637 1326 1951" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1145 1962 1251 1995">街頭募金</p>

年度	柏市社会福祉協議会のあゆみ	市及び世論の動向
平成 14 (2002)	<p>4月 「ふれあいのまちづくり事業」の指定に伴い地区社協活動の充実を図る ～サロン活動・友愛訪問・ふれあい給食サービス・三世代交流事業・敬老事業・啓発活動～</p> <p>4月 シルバー事業に新規事業が加わる ～グラウンドゴルフ大会・シルバー運動会・じゅげむ芸能大会・シルバー作品展～</p> <p>5月 財団法人柏市福祉公社解散に伴う事務事業調整始まる</p> <p>6月 地区社会福祉協議会連絡会開催</p> <p>8月 地区社協福祉教育講演会開催</p> <p>9月 介護予防事業実施</p> <p>1月 理事会において財団法人柏市福祉公社事務事業の移行決定</p> <p>1月 ボランティアコーディネーター研修実施</p> <p>2月 傾聴ボランティア講座開催</p>	<p>5月 介護予防センター「ほのぼのプラザますお」がオープン</p> <p>6月 柏駅東口ダブルデッキにエスカレーター設置</p> <p>3月 財団法人柏市福祉公社が解散</p>

年度	柏市社会福祉協議会のあゆみ	柏市及び社会の動向
平成 15 (2003)	4月 事務局に課制を導入(総務課・地域福祉課・さわやかサービス課)	6月 柏駅西口～羽田空港間に高速バス運行開始
	4月 長期生活支援資金、緊急小口資金貸付制度開始	7月 柏市・沼南町合併協議会設置
	4月 財団法人柏市福祉公社から住民参加型有償在宅福祉サービス「さわやかサービス」、「配食サービス」事業を移行し開始	9月 市の施設が全面禁煙に
	4月 いきがい活動支援通所事業開催	10月 南柏駅東口の新しい駅前広場が供用開始
	7月 夏季ボランティア体験学習受入れ先紹介冊子「夏ボラのススメ」発行	10月 柏駅～慈恵医大柏病院のバス路線が開通
	9月 介護予防事業「健康体操研修会」開催	11月 全日本吹奏楽コンクール全国大会で酒井根中が金賞受賞
	9月 シルバー事業開催(運動会・芸能大会・作品展)	11月 児童虐待防止マニュアルを作成、かしわSOS子どもホットラインを設置
	9月 ボランティアリーダー育成研修実施	12月 エンジョイ・パトロールを開始
	10月 柏市社協のホームページを開設	1月 JOMOサンフラワーズが全日本総合選手権4連覇
	12月 ふれあいのまちづくり事業推進研修会開催	
	12月 保健福祉情報誌「お役立ちくん」発行	
	1月 柏市・沼南町社会福祉協議会合併協議会設置の承認	
	1月 社会福祉協議会合併協議会会議開催(2回)	
	3月 福祉教育のための教職員向け手引書「おおきなくりの木の下で」発行	

年度	柏市社会福祉協議会のあゆみ	柏市及び社会の動向
平成 16 (2004)	4 月 収益事業として自動販売機設置 経営事業を開始	4 月 女性の健康診査を見直し、女性の 基本 3 5 検診を導入
	4 月 社会福祉協議会合併協議会会議 開催 (5 回)	5 月 健康文化都市推進組織「3 あいサ ポート柏」から独立し、「柏まち づくり実行委員会」を組織
	9 月 会費等財政検討委員会設置 (4 回 開催)	7 月 柏市・沼南町合併協定調印式
	9 月 柏市・沼南町社会福祉協議会合併 契約調印式開催	8 月 アテネオリンピック女子バスケ ットボール日本代表に J O M O サンフラワーズからヘッドコー チや選手 1 2 人が出場
	12 月 ふれあいのまちづくり事業推進 研修会開催	9 月 アテネパラリンピック車椅子ダ ブルスで市内のテニス倶楽部に 所属する齊田悟司・国枝慎吾選手 が金メダル
	12 月 会費等財政検討委員会委員長か ら柏市社協会長に答申 「平成 1 7 年度から会員制度を 住民会員・特別会員・団体会員・ 個人会員に改め住民会費を 1 世 帯当たり 3 0 0 円に改定」	10 月 全日本吹奏楽コンクールで市立 柏高校が金賞、柏中学校が銀賞、 酒井根中学校が銅賞を受賞
	2 月 精神障害者福祉事業講演会開催	11 月 母子福祉推進員制度廃止
	2 月 西原近隣センター・南部近隣セン ターにおいて地区別計画策定ヒ アリング実施	11 月 市制施行 5 0 周年記念式典挙 行
	3 月 西原地区と南部地区において懇 談会開催	3 月 柏市と沼南町が合併・沼南庁舎開 庁
	3 月 柏市社会福祉協議会と沼南町社 会福祉協議会が合併	
	3 月 「柏市社会福祉協議会」の主たる 事務所をいきいきプラザに置く (さわやかサービス課を「ボラン ティアセンター」に、沼南町社会 福祉センターを「沼南社会福祉 センター」に改称し、ボランティ ア育成部門及び在宅福祉サービ ス部門の拠点とする) 地域福祉課に「総合相談担当」を 配置	

柏市・沼南町合併協定書への署名

柏市・沼南町社協合併契約調印式

年度	柏市社会福祉協議会のあゆみ	柏市及び社会の動向
平成 17 (2005)	<p>4月 住民会費を1世帯当たり300円に改定</p> <p>4月 老人福祉センターにおいて「介護予防・世代間交流事業講座」を開講</p> <p>7月 第7代会長に為成勝五郎氏就任</p> <p>9月 ボランティアセンター運営委員会設置</p> <p>9月 理事会専門委員会設置(6回開催)</p> <p>10月 保健福祉情報誌「お役立ちくん」改訂版発刊</p> <p>12月 ふれあいのまちづくり事業推進研修会開催</p> <p>1月 介護予防事業「認知症予防講座」実施</p> <p>2月 「市民と創る認知症高齢者介護啓発研修会」開催</p> <p>2月 評議員専門部会設置(3回開催)</p> <p>3月 災害ボランティア立ち上げ研修会開催</p> <p>3月 評議員会において「柏市地域健康福祉活動計画(案)」が承認</p> <p>3月 「柏市地域健康福祉活動計画」発行</p>	<p>4月 南部クリーンセンター本格稼働</p> <p>4月 中原ふれあい防災公園オープン</p> <p>4月 合併記念式典を開催</p> <p>7月 千葉きらめき総体が開催(柏市はテニス競技の会場)</p> <p>8月 つくばエクスプレス開業 「柏の葉キャンパス駅」「柏たなか駅」が誕生</p> <p>9月 南部・藤心地域でジャンボタクシーが運行開始</p> <p>10月 市長選挙で本多晃市長が四選</p> <p>12月 赤い救急隊「赤救隊」が始動</p> <p>2月 合併記念NHK「のど自慢」開催</p>
平成 18 (2006)	<p>4月 送迎サービス「こらくだくん」有償運行開始</p> <p>4月 老人福祉センター(4館)、地域福祉センターの管理・経営を受託(指定管理者)し、介護予防講座・障害者社会参加講座を展開</p> <p>4月 栄養改善事業を受託</p> <p>6月 柏市社会福祉協議会創立50周年記念事業準備委員会設置(4回開催)</p> <p>8月 8月を「会員増強月間」とし会員募集活動を展開</p> <p>10月 創立50周年記念第33回柏市住民福祉大会開催</p>	<p>4月 柏市中期基本計画を策定</p> <p>4月 地域包括支援センター開設</p> <p>4月 リフレッシュプラザ柏オープン</p> <p>4月 砂川美術工芸館が再開</p> <p>6月 防災福祉K-Net 発足</p>



合併記念NHK「のど自慢」



ふくし広報

創刊号

社福かしわ

1974

10/1

目 標

だれもが
しあわせな住み
よい地域社会を
めざして

<発行部数 55,000 全世帯配布>

発 行

社会福祉法人
柏市社会福祉協議会
柏市 柏 5-10-1
柏市役所厚生課内
TEL 0471-67-1111



ごあいさつ

柏市社会福祉協議会

会 長 渡 部 豊 夫

このたび、各関係者のご協力を
いただき、柏市社会福祉協議会の広
報「社福かしわ」創刊号を発刊し、市民各位にお届けで
きますことを心からうれしく存じます。

日ごと、地域における社会福祉の増進のための諸活動
に対し、市民各方面から多大のご協力をいただき、心か
ら厚く御礼を申し上げる次第であります。
ご承知のように、ここ2.3年前から政治の流れは国をあ
げて開発から福祉優先へと転換しつつあり、国民各層か
らこのことにより関心と期待が寄せられつつあり
ます。このときあたり、私も柏市におきまして行政
当局も強力に福祉行政を推進しつつあり、そしてその
成果を着々と収めていることにつき敬意を表するととも
に、今後さらに積極策を期待するものであります。

一方、住民福祉に関しては、民間からの協力がなけれ
ば一層の効果をあげるこ
とはできません。こうし
た意味から柏市社会福祉
協議会の存在意義はきわ
めて重要であると同時に
今後とも官民一体となっ
て社会福祉事業を推進し
てゆきたいものでありま
す。

社会福祉協議会におけ
る当面の具体的な活動方
向については、住民各位
のご要望・ご意見をいた
だきながら、本会組織の
拡充はじめ運営面の改善
をはかりつつ、より充実
を期してゆきたいものと
願っております。

また、住民福祉全般に
ついて、市民各層からの
積極的なボランティア
(能力提供や奉仕活動)運
動を展開し、とくに精神
的、肉体的な障害にある
方々に対して思いやりの
ある愛の行動を起してゆ
きたいものと思ひます。

どうぞ、市民各位にお
かれましても、これらの
諸活動を進めてゆくにあ
たり、暖かいご理解とご
支援を賜りますよう心
からお願い申し上げます。



福祉広報 **かしわ社協だより** No. 50
1988
4月号

— 目 標 —
だれもが
しあわせな 住みよい
地域社会をめざして

編集発行 社会福祉法人 柏市社会福祉協議会
柏市柏五丁目 8 番12号(柏市教育福祉会館内)
TEL 0471 (63) 9001代



(1) 第100号

かしわ社協だより

平成13年3月9日発行

NO. 100

2001

3月号

かしわ社協だより

福祉広報

編集発行

(発行 6月、9月、12月、3月)

社会福祉法人

柏市社会福祉協議会

柏市柏五丁目8番12号

(柏市教育福祉会館内)

TEL 0471-63-9001(代)

FAX 0471-63-9199

第19回 かしわ葉 福祉まつり

会場のご案内

5F

- ・「子供のための手話教室」(10日)
- ・「ミニシアターはらべこくん」人形劇公演 (10日)
- ・レクリエーションの広場 (11日)
- ・朗読会 (11日)
- ・手話の広場 (11日)
- ・茶道コーナー (11日)

4F

- ・軽食コーナー (10日・11日)
- ・視覚障害者の生活 (10日・11日)
- ・陶器色つけコーナー (10日)
- ・ガス工作コーナー (11日)
- ・紙ねんどブローチ工作とフェイスペインティングコーナー (11日)

3F

- ・手相コーナー (10日・11日)
- ・車イス体験コーナー (10日・11日)
- ・高齢者疑似体験コーナー(10日・11日)
- ・福祉施設展 (10日・11日)
- ・福祉機器展示コーナー(10日・11日)

2F

- ・おもちゃ図書館 (10日・11日)
- ・おもちゃ病院 (10日・11日)
- ・ボランティアパネル展(10日・11日)
- ・対面朗読コーナー (10日・11日)
- ・第3回いきいきカルチャー柏発表会 (10日・11日)

1F

- ・スタンブラリー (10日・11日)
- ・見て/聞いて/やってみて!! (10日・11日)
- ・抽選コーナー (10日・11日)

屋外

- ・バザー (市役所第3駐車場)
- ・もちつきコーナー (1F玄関先)
- ・ミニ電車 (バザー会場裏)
- ・縁日コーナー (バザー会場裏)

11日のみ



車いす体験コーナー (昨年の福祉まつり)

日時

3月10日(土)
午後1時～4時

3月11日(日)
午前10時～4時

開催場所

柏市教育福祉会館

「かしわ葉福祉まつり」は、障害者と地域で暮らすすべての人々の交流の場として、福祉団体やボランティア団体のご協力のもとに開催されるもので、今年で19回目の開催となります。

皆さまのご参加をお待ちしています。

同時開催

いきいきカルチャー柏発表会

教育福祉会館2階の「中央老人福祉センター」では、受講生及び講師の唄やダンス等の発表と作品の展示をしております。

特別イベント

10日〈唄と踊りでめぐる日本の民謡〉
11日〈マジックと講師のイベント〉

もくじ

- 共存共生への未来はふれあいから (松葉二小) P 2
- 福祉サービスの苦情解決事業 P 2
- 大人だって褒められて伸びる (ミニシアターはらべこくん) ... P 3
- 社協事務所移転 P 3
- 新規会員の紹介 P 4

共催 かしわ葉福祉まつり実行委員会・柏市・柏市社会福祉協議会
問い合わせ 柏市社会福祉協議会 電話 63-9001

※会場には手話通訳者が待機しています。柏市福祉会館に声をかけて下さい。
※駐車場が狭いため、右車での来場はご遠慮下さい。

第124号

福祉広報
かしわ



社協だより

平成18年8月1日発行

編集・発行

社 会 福 祉 法 人
柏 市 社 会 福 祉 協 議 会
〒277-0005
柏 市 柏 5-11-8
TEL 04(7163)3100
FAX 04(7163)9300

ありがとう
ございます

あなたの会費が社協を支えています

社会福祉協議会は、地域の福祉活動推進のために様々な事業を展開する社会福祉法人の団体です。各種の事業を進めていくために、住民の皆様のおたのしみや協力による会費が財源となっています。お寄せいただいた会費は、地域を支えるボランティアの育成や地区社会福祉協議会の活動費、「社協だより」を発行する費用などに活用させていただいています。



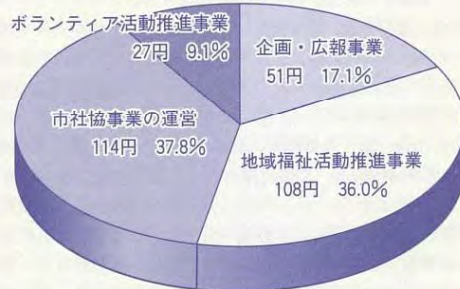
風早北部地区社協福祉はてな教室
親子で育てた野菜で料理作り

- ☆広報紙「社協だより」の発行
- ☆住民福祉大会の開催
- ☆地域福祉活動推進事業
- ☆地区社協活動への支援と連携
- ☆町会・自治会等小地域における福祉活動支援あい活動への支援
- ☆障害者福祉事業（講演会や福祉カーの貸出し事業）
- ☆高齢者福祉事業（シルバークリニック）

市社協の会員には、住民会員、個人会員、団体会員、特別会員の4種類あります。納付していただいた会費のおよそ85パーセントが住民会費です。住民会費は町会・自治会・区等を通じて納付していただいています。住民会費の主な用途は次のとおりです。

みなさんからいただいた会費はこのように活用しています

住民会費300円の使いみち



（問い合わせ）
総務課
☎ 7163-3100



これらの事業を運営するための
通信費や印刷製本費、消耗品費、パソコンや複写機の賃借費用等の事業運営経費

- ☆福祉総合相談事業
- ・心配ごと相談事業・総合相談事業
- ☆ボランティア活動推進事業
- ☆ボランティアセンターの運営
- ☆ボランティア及び市民活動団体等の養成・育成
- ☆ボランティア相談
- ☆福祉教育の推進
- ☆社協事業の運営
- ☆さわやかサービス
- ・生活援助・介護サービス
- ・送迎サービス（こらくだくん）
- ☆ファミリー・サポートセンター（子育て支援サービス）
- ☆高齢者福祉事業
- ・配食サービス事業・敬老事業
- ☆地域福祉センター、老人福祉センターの管理経営事業
- ・社会福祉センター設置経営事業
- ☆共同募金配分事業
- ☆福祉サービス利用援助事業
- ☆資金貸付事業



- ☆福祉総合相談事業
- ・心配ごと相談事業・総合相談事業
- ☆ボランティア活動推進事業
- ☆ボランティアセンターの運営
- ☆ボランティア及び市民活動団体等の養成・育成
- ☆ボランティア相談
- ☆福祉教育の推進
- ☆社協事業の運営
- ☆さわやかサービス
- ・生活援助・介護サービス
- ・送迎サービス（こらくだくん）
- ☆ファミリー・サポートセンター（子育て支援サービス）
- ☆高齢者福祉事業
- ・配食サービス事業・敬老事業
- ☆地域福祉センター、老人福祉センターの管理経営事業
- ・社会福祉センター設置経営事業
- ☆共同募金配分事業
- ☆福祉サービス利用援助事業
- ☆資金貸付事業

関連記事は2面にあります。

旧沼南町社会福祉協議会のあゆみ

年度	旧沼南町社会福祉協議会のあゆみ	旧沼南町及び社会の動向
昭和 44 (1969)	4月 沼南町社会福祉協議会設立（任意団体）事務所を役場庁舎内に置く 10月 赤い羽根共同募金運動（継続） 12月 歳末助け合い運動（継続）	3月 県道船橋・取手線（現船橋・我孫子線）全線舗装となる 10月 沼南町交通安全対策協議会発足 1月 沼南・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合のし尿処理施設が完成し、共同処理開始
昭和 45 (1970)	 <p>沼南町の木「椎」</p>	9月 沼南町の木「椎」に決まる（昭和48年の千葉国体記念事業） 2月 町営水道の事業認可を受ける 3月 沼南電話局（91）開局
昭和 46 (1971)		4月 島村洪一郎氏が2代目町長に就任
昭和 47 (1972)	 <p>名誉町民 中台正夫氏</p>	4月 中台正夫氏沼南町の名誉町民となる 10月 第1回沼南町町民体育大会開催 10月 沼南町史編さん委員会発足 3月 北千葉広域水道事業団発足
昭和 48 (1973)		11月 家庭児童相談室開設
昭和 49 (1974)		4月 消費者生活相談室開設 11月 町制施行10周年式典挙行
昭和 50 (1975)		4月 清掃工場操業開始（旧清掃工場、初のゴミ焼却施設）、ゴミの分別収集も始まる 4月 広報無線による行政情報や非常災害等の通報開始 5月 沼南町役場消防発足
昭和 51 (1976)		3月 沼南台土地区画整理事業区域の呼称「大津ヶ丘」となる

年度	旧沼南町社会福祉協議会のあゆみ	旧沼南町及び社会の動向
昭和 52 (1977)		7月 婦人交通安全指導員設置 10月 カードによる印鑑登録証発行 3月 大津ヶ丘団地の入居開始 3月 阪東バス 柏駅～大津ヶ丘団地間のバス路線運行開始
昭和 53 (1978)	大津ヶ丘団地完成直後	4月 町営上水道が給水開始 7月 手賀沼漁業協同組合の手賀沼水産会館オープン 1月 沼南町商工会館完成 1月 相馬正義氏が3代目町長に就任
昭和 54 (1979)	7月 福祉資金貸付制度制定 7月 世帯更生資金・老障資金貸付制度受託 1月 沼南ボランティア会発足	5月 町の人口3万人突破
昭和 55 (1980)	4月 手話サークル「まこもの会」発足	4月 沼南町消防署開設(常備消防体制スタート) 8月 総合運動場完成(現塚崎運動場)
昭和 56 (1981)	 第1回沼南町健康マラソン大会	4月 町営上水道、北千葉水道企業団から受水開始(江戸川) 10月 第1回沼南まつり開催(17,000人参加) 10月 下総基地が住宅防音区域に初めて指定される 1月 第1回沼南町健康マラソン大会開催(13,000人参加) 4月 二松学舎大学沼南キャンパス開校 8月 手賀沼水面清掃船「みずすまし号」進水
昭和 58 (1983)		4月 町立高柳保育所オープン 11月 沼南町役場第二庁舎完成(地上6階地下1階) 12月 移動窓口車(みどり号)運行開始

年度	旧沼南町社会福祉協議会のあゆみ	旧沼南町及び社会の動向
昭和 59 (1984)	<p>4月 法人化に向けての準備開始</p>  <p>町制施行20周年式典</p>	<p>4月 沼南町老人福祉センター「いこい荘」オープン</p> <p>4月 県立沼南高柳高校開校</p> <p>6月 町制施行 20 周年記念式典挙行</p> <p>7月 町内初の移動入浴車運行開始</p> <p>10月 手賀沼の浄化対策としてハクレンの稚魚放流</p> <p>3月 町の一般廃棄物最終処分場完成</p>
昭和 60 (1985)	<p>4月 福祉活動専門員設置</p> <p>4月 福祉機器の貸出し事業開始</p> <p>4月 ゲートボール連合会の事務局を担う</p> <p>4月 沼南町老人福祉センター「いこい荘」管理運営受託</p> <p>6月 寝たきり老人慰問品配布（平成 12 年廃止）</p> <p>7月 長期療養者夏季見舞金支給（平成 8 年廃止）</p> <p>10月 町社協事務所を沼南町老人福祉センター内に移す</p> <p>11月 沼南町社会福祉協議会法人化 相馬正義氏（町長）初代会長就任</p> <p>12月 第 1 回福祉クリスマス会開始（平成 5 年廃止）</p> <p>2月 社協広報「社会福祉沼南」創刊号発刊（70 号廃刊）</p> <p>2月 2 月を会員全戸加入運動推進月間とする 自主財源確保を視点に以後推進</p>	<p>7月 町の花いっぱい運動スタート</p> <p>3月 ハレー彗星大接近、町でも観察会</p>  <p>初代会長 相馬正義氏</p>  <p>社協広報創刊号</p>

年度	旧沼南町社会福祉協議会のあゆみ	旧沼南町及び社会の動向
昭和 61 (1986)	<p>5月 第1回母子・父子レクリエーション事業実施（平成8年廃止）</p> <p>5月 沼南ライオンズ・クラブ車輛寄付</p> <p>7月 心配ごと相談所設置</p> <p>7月 7月を会員・会費募集強調月間に設定</p> <p>8月 身体障害児・知的障害者プール教室開催</p> <p>8月 第1回学生ボランティア講座（高校生対象）開始 次世代を担う福祉教育を視点に以後推進（平成12年廃止）</p> <p>9月 第1回老人福祉大会開催（平成12年廃止）</p> <p>10月 第1回福祉バザー開催（平成12年廃止）</p> <p>11月 第1回住民福祉推進大会開催（平成11年廃止）</p> <p>3月 基本福祉圏ネットワーク推進委員会発足 地域住民の組織化による基盤整備を視点に以後推進</p>	<p>4月 沼南町消防署高柳分署開設</p> <p>12月 高柳西部「しいの木台」土地区画整理事業（施工面積48.5ha）を都市計画決定</p> <div data-bbox="927 595 1323 792" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="970 808 1278 840">障害者と交流した水泳教室</p> <div data-bbox="927 978 1327 1319" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1015 1335 1246 1391">地域ぐるみ福祉推進 キャラバン隊の来町</p>
昭和 62 (1987)	<p>4月 地域ぐるみ福祉ネットワーク職員設置</p> <p>4月 福祉振興基金設置</p> <p>5月 社会福祉協議会対策部会設置</p> <p>3月 手賀地区ネットワーク推進委員会発足 高齢者基本・個別調査、地域懇談会から手掛ける</p>	<p>4月 手賀の丘公園・運動場オープン</p> <p>8月 利根川治水100年記念行事挙行（手賀沼花火大会など）</p> <p>12月 下総基地P3C配備</p> <p>1月 沼南町住民登録のオンラインシステム稼動</p>

年度	旧沼南町社会福祉協議会のあゆみ	旧沼南町及び社会の動向
昭和 63 (1988)	4月 災害見舞金支給規則制定 4月 ふれあい募金箱の設置 7月 第1回ボランティア講座開催 福祉教育推進・ボランティア養成・組織化による基盤整備を視点到に以後推進 9月 沼南ボランティアサークルB&G発足 ボランティアの組織化を視点到に以後推進 3月 高柳地区ネットワーク推進委員会発足	5月 旅券事務所東葛分室が松戸市内に開設 8月 町の人口4万人を突破 12月 町の印鑑登録事務が電算化される (印鑑登録証が磁気カード化) 3月 木炭などによる礫間処理浄化施設設置(染井入落し) <div data-bbox="975 645 1370 936" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1054 952 1299 981" data-label="Caption"> <p>学生ボランティア講座</p> </div>
平成元 (1989)	4月 小・中・高校全校を福祉教育推進校に指定 4月 食事サービス「ゆずり葉の会」発足 4月 手話講座の開始 4月 朗読講座並びに組織化「うぐいすの会」 4月 点訳講座並びに組織化「つぶら会」 5月 収集ボランティア「ロータスの会」組織化 6月 ロータスクーポン360万点収集運動開始 11月 在宅ケアを考える会 住民参加型在宅福祉サービスを視点到に以後推進 1月 風早北部地区ネットワーク推進委員会発足 3月 風早南部地区ネットワーク推進委員会発足 3月 普通会費1世帯200円を300円に改める	4月 沼南町保健相談センターオープン 9月 沼南町の住環境を守るため「環境保全宣言の町」となる 9月 国際交流推進協議会発足 <div data-bbox="975 1240 1259 1532" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1062 1547 1174 1576" data-label="Caption"> <p>手話講座</p> </div> <div data-bbox="975 1637 1323 1951" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1062 1962 1230 1991" data-label="Caption"> <p>家庭介護講座</p> </div>

年度	旧沼南町社会福祉協議会のあゆみ	旧沼南町及び社会の動向
平成 2 (1990)	<p>4月 陶芸ボランティア「どろんこの会」組織化</p> <p>7月 第1回子供ボランティア（小学生対象）講座開始（平成12年廃止）</p> <p>8月 リフト付きワゴン車「ゆうあい号」貸出受託</p> <p>9月 第1回福祉まつり開催</p> <p>10月 沼南町心身障害者福祉作業所「ひまわり園」受託</p> <p>3月 大津ヶ丘地区ネットワーク推進委員会発足</p> <p>3月 リフト付きワゴン車「ゆうあい号」貸付事業受託</p>	<p>5月 移動図書館「ふれあい号」スタート</p> <p>10月 町の花「ひまわり」となる</p> <p>10月 心身障害者福祉作業所「ひまわり園」開設</p> <p>10月 道路脇に花を植えたフラワーロードが誕生（花いっぱい運動）</p> <p>10月 資源ゴミ回収始まる（町有価物集団回収事業）</p>
		 <p>町の花「ひまわり」</p>
平成 3 (1991)	<p>5月 社会福祉の拠点整備のため視察</p> <p>6月 視覚障害者ボランティア講座開催</p> <p>7月 住民参加型在宅福祉サービス「ひまわりの会」発足、事業開始</p> <p>9月 国際ボランティア貯金加入啓発</p> <p>10月 ボランティアワープロ講座開始（平成6年廃止）</p> <p>11月 視覚障害者とボランティアとの交流会開催 ガイドヘルパー派遣事業へ</p> <p>12月 第2代会長に富澤正男氏就任</p> <p>2月 車椅子生活者情報交換会開催 平成6年11月「沼南障友会」発足へ</p>	 <p>第2代会長 富澤正男氏</p>
平成 4 (1992)	<p>4月 在宅福祉サービス専門員設置</p> <p>4月 安否確認を含む食事サービス開始</p> <p>11月 沼南町社会福祉協議会が千葉県社会福祉協議会会長表彰受賞</p> <p>1月 福祉映画会開催</p>	<p>4月 手賀の丘公園管理棟「どんぐりの家」完成</p> <p>9月 公立小中学校週5日制始まる</p>
平成 5 (1993)	<p>7月 北海道南西沖地震義捐金受付開始</p>	<p>4月 県立手賀の丘少年自然の家開所</p> <p>3月 沼南町老人保健福祉計画策定（平成6年度～11年度）</p>

年度	旧沼南町社会福祉協議会のあゆみ	旧沼南町及び社会の動向
平成 6 (1994)	4月 「沼南たんぼぼの会」登録 11月 千葉県共同募金会において広報第36号が入賞 2月 阪神・淡路大震災義捐金活動開始	6月 町内初の特別養護老人ホーム「アネシス」開所（布瀬） 9月 町制 30 周年記念式典挙行 9月 沼南町総合体育館オープン 1月 藤川清氏が 4 代目町長に就任 1月 阪神・淡路大震災発生で町から職員派遣
平成 7 (1995)	4月 市町村ボランティアセンター活動事業指定（3 か年） ボランティア活動の発展強化を視点に 4月 高等学校福祉教育連絡会設置 4月 沼南マジック倶楽部発足 11月 シニアいきいきライフゼミ開催 1月 ボランティア連絡協議会発足	5月 沼南町役場高柳出張所併設の高柳コミュニティセンターがオープン 10月 第 1 回手賀沼マラソン 95 開催（2 市 1 町） 2月 県大津川浄化施設が完成 3月 町と姉妹都市である綾瀬市と「災害応援協定」締結
平成 8 (1996)	4月 福祉喫茶「ひまわり」運営 5月 中山馬主協会の助成により福祉循環バスを整備 5月 沼南ライオンズ・クラブ車輛寄付 6月 日曜大工ボランティア講座を開始し、日曜大工ボランティアを組織化 6月 沼南町福祉循環バス「いこい号」運行受託 10月 沼南町第二心身障害者福祉作業所受託 町社協事務所を沼南町第二心身障害者福祉作業所内に移す 11月 高齢者体験講座開始 1月 日本海重油流出事故災害義捐金活動開始 3月 ボランティアセンター並びにボランティアセンター運営委員会設置 3月 沼南町福祉施設連絡会設置 3月 移送サービス準備開始	6月 老人福祉センター送迎バスが福祉循環バスとして運行開始 9月 手賀沼のハス群生地散策路完成 10月 第二心身障害者福祉作業所オープン 11月 町役場発着のバス路線新設



日曜大工ボランティア講座


年度	旧沼南町社会福祉協議会のあゆみ	旧沼南町及び社会の動向
平成 9 (1997)	<p>4 月 地区社会福祉協議会設置規程制定</p> <p>4 月 大津ヶ丘地区社協設置</p> <p>4 月 沼南手賀沼ボランティア会発足 環境ボランティアに登録</p> <p>9 月 仮称「沼南町社会福祉センター」 建設準備委員会開催</p> <p>9 月 移送サービス開始</p> <p>1 月 ボランティア情報紙「ウェーブ」 (15 号廃刊)</p> <div data-bbox="400 763 783 1055" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">架け替えられた手賀大橋</p>	<p>4 月 沼南町立高柳西保育所開設</p> <p>4 月 オーストラリア・キャムデンと友好都市協定締結</p> <p>8 月 手賀大橋架け替え工事片側 2 車線で開通</p> <p>9 月 第二工業団地の町名が「風早一・二丁目」となる</p> <p>10 月 野田自動車車検登録事務所開設、車のナンバー「野田」となる</p> <p>1 月 第 1 回子ども模擬議会が開催</p> <p>2 月 第 1 回手賀沼流域フォーラム開催 (沼南町・柏市・我孫子市他共催)</p>
平成 10 (1998)	<p>4 月 高柳地区社会福祉協議会設置</p> <p>4 月 手賀地区社会福祉協議会設置</p> <p>5 月 保育所・幼稚園・小学校・中学校 福祉教育連絡会設置</p> <p>5 月 仮称「沼南町社会福祉センター」 の建設決定</p> <p>7 月 沼南町社会福祉センター新築工事 起工式</p> <p>7 月 介護保険制度に対する検討開始 公的在宅福祉サービスを視点に</p> <p>10 月 中学生ボランティア講座開始 (平成 12 年廃止)</p> <p>3 月 介護保険制度参入への意思決定</p>	<p>9 月 「大津ヶ丘団地誕生 20 周年記念祭」団地内で開催</p> <p>1 月 中央公民館図書室が新装オープン</p>

年度	旧沼南町社会福祉協議会のあゆみ	旧沼南町及び社会の動向
平成 11 (1999)	<p>4 月 沼南町社会福祉センター完成 (沼南町、日本自転車振興会の補助により)</p> <p>4 月 沼南町社会福祉センター内に町社協事務所を移す</p> <p>4 月 沼南町ヘルパー派遣事業受託</p> <p>5 月 沼南町社会福祉センターオープン</p> <p>5 月 風早南部地区社会福祉協議会設置</p> <p>6 月 千葉県共同募金会からワゴン車配分</p> <p>7 月 ふれあいのまちづくり事業指定 (5 か年) 社協発展・強化のため、理念・活動計画・総合相談等を視点に推進</p> <p>10 月 風早北部地区社会福祉協議会設置</p> <p>11 月 さわる絵本講座の開催その後、チューリップの会組織化</p> <p>12 月 全国社会福祉協議会会長表彰受賞</p> <p>12 月 子供室ボランティア登録</p> <p>2 月 ふれあいのまちづくり推進会設置</p>	<p>4 月 流山運転免許センター業務開始</p> <p>4 月 手賀沼 2000 年委員会発足</p> <p>4 月 徘徊老人早期発見のための柏・沼南のネットワークが発足</p> <p>6 月 特別養護老人ホーム「沼風苑」がオープン</p> <p>1 月 手賀沼 2000 年委員会が 21 世紀を迎えて各種イベント実施</p>
		
		沼南町社会福祉センター完成
		
	全社協会長表彰受賞	

年度	旧沼南町社会福祉協議会のあゆみ	旧沼南町及び社会の動向
平成 12 (2000)	4月 視覚障害者ガイドヘルプ事業開始 4月 指定居宅サービス事業所（訪問介護）開設 4月 沼南町基幹型在宅介護支援センター受託（3か年） 4月 沼南町ことばの教室受託 4月 沼南町金婚式祝業務受託（2か年） 4月 地区社会福祉協議会高齢者事業助成受託 4月 沼南町生きがい事業受託 （平成15年4月社団法人シルバー人材センターへ移行） 4月 障害者ホームヘルパー派遣業務受託 4月 生活支援型ホームヘルパー派遣事業受託 4月 軽度生活援助事業受託 4月 指定居宅介護支援事業所開設 9月 地域福祉活動計画策定委員会設置 3月 介護支援車両整備（日本財団の助成により）	4月 介護保険制度がスタート 4月 沼南町役場ホームページ開設 4月 北千葉導水路事業が完成。第2機場（柏市戸張）から利根川の浄化用水を手賀沼に注水開始 4月 地域子育て支援センター開設 12月 市町村合併推進要綱が定められ、沼南・柏の合併案が初めて提示される 1月 21世紀手賀沼八景が決まる（沼南町・我孫子市各3か所、柏市2か所）
		
平成 13 (2001)	4月 弁護士による法律相談開始（松戸弁護士会協力） 4月 子育て支援サービス開始 4月 事業安定化運用基金設置 12月 第3代会長に勝矢孝雄氏就任 12月 心身障害者ホームヘルプサービス事業受託 3月 沼南町地域福祉活動計画策定	4月 道の駅「しょうなん」がオープン 4月 家電リサイクル法施行（エアコン他3種類） 5月 さわやかプラザ軽井沢オープン（2市1町で運営） 5月 「もってこい講座」が始まる 6月 高柳児童ルームがオープン 10月 住民票など3市1町で共同交付開始 1月 都市計画税が課税



第3代会長 勝矢孝雄氏

年度	旧沼南町社会福祉協議会のあゆみ	旧沼南町及び社会の動向
平成 14 (2002)	4月 福祉サービスに対する苦情解決制度制定 8月 経営委員会設置  手賀沼 黎明	4月 学校の完全週5日制が始まる 4月 しいの木台地区にレインボーバス運行 8月 手賀沼の水質全国ワースト1を脱出(平成13年公表データ) 11月 ケアハウス「沼南の里」完成 1月 町内に不法投棄監視システム導入
平成 15 (2003)	4月 自立支援目的基金設置 4月 法外援助事業開始 4月 日常生活支援サービス事業開始 4月 居宅介護等事業(身体障害者・知的障害者・児童)開始 4月 精神障害者居宅介護事業開始 5月 町社協のホームページを開設 6月 沼南町ミニ・ファミリーサポートセンター受託 1月 社会福祉協議会合併協議会会議開催(2回)	4月 社団法人沼南町シルバー人材センター開設 4月 藤ヶ谷ふれあいセンターオープン(2市1町環境衛生組合地域還元施設) 6月 ミニ・ファミリーサポートセンターがオープン 7月 柏市・沼南町合併協議会発足 8月 住民基本台帳ネットワークサービス、全国規模で運用開始(住基カード発行) 1月 新しい沼南町商工会館完成 2月 町商工会青年部による沼南独自のキャラクター「テガレンジャー」がデビュー
平成 16 (2004)	4月 社会福祉協議会合併協議会会議開催(5回) 9月 柏市・沼南町社会福祉協議会合併契約調印式 10月 新潟県中越地震義捐金活動開始 3月 地区社協活動の手引き発刊 入門・基本・活用・便利編 3月 社会福祉法人柏市社会福祉協議会に編入合併のため解散(3月27日)	8月 柏市・沼南町の両議会において合併に関する議案が可決される 3月 沼南町閉町記念式典挙行(3月19日) 3月 沼南町が「千葉県柏市」となる(3月28日)



柏市社会福祉協議会の事業



一般福祉事業

福祉広報「社協だより」発行・ホームページ

市社協活動PRや地域活動の紹介、福祉情報の提供など、広く住民の方々に地域福祉への理解をいただくため、年6回、福祉広報「かしわ社協だより」を全戸に配布するとともに、様々な情報をいち早くお届けできるようホームページを開設しています。



発行毎の配布部数 134,000部



平均アクセス件数 約 2,000/月

柏市住民福祉大会の開催

昭和49年度に開催された第1回大会以降、毎年、市内の社会福祉関係者及び一般住民の参加と協力によって、柏市の住民福祉に寄与された方々を顕彰し、今後の地域福祉の発展を図っています。

平成18年度は、柏市社会福祉協議会創立50周年の記念大会です。

第32回大会の様子



会長あいさつ



表彰式



福祉の心作品展作文朗読

地域福祉センターの管理・経営（指定管理者）

市役所に隣接する教育福祉会館の1～2階にあたる地域福祉センターの管理・経営について、平成18年度、柏市から指定管理者としての指定を受け、貸館等の業務を行っています。また、従来からの「ボランティア育成事業」とあわせ、「障害者社会参加事業」として、新たに下記の事業を柏市社会福祉協議会が実施することとなりました。

- ・身体障害者のスポーツ講習会
- ・聴覚障害者の手話講習会・健康講座
- ・視覚障害者の点字教室、パソコン講座、健康講座
- ・肢体不自由者のパソコン講座
- ・障害者全般のパソコン開放事業

*平成17年度利用状況

施設	昼時間帯		夜時間帯	
	件数	利用者数	件数	利用者数
大会議室	406件	14,450人	90件	2,010人
和室	306件	5,701人	27件	351人
合計	712件	20,151人	117件	2,361人



地域福祉センター

沼南社会福祉センターの設置・経営

沼南社会福祉センターは、市内のボランティア活動の拠点として運営するとともに、同センターを市民活動の場として会議室等の貸出を行っています。

*平成17年度利用状況

施設	件数	利用者数
レクリエーション室	133件	2,154人
調理実習室	53件	636人
研修室	138件	1,876人
会議室	262件	5,712人
録音室	123件	416人
ボランティア活動室	167件	2,188人
地域活動推進室	37件	235人
合計	913件	13,217人



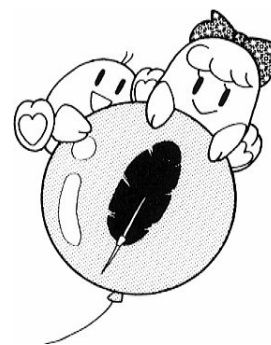
沼南社会福祉センター

共同募金・歳末たすけあい募金事業

「共同募金運動」は、国民の社会福祉に対する理解と関心を培うとともに社会福祉事業の推進に大きな役割を果たしています。誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができる社会を実現するため、「民間の社会福祉を目的とする事業」を積極的に支援することを目的としています。

●赤い羽根共同募金

お寄せいただいた募金の約40%は広域配分として県内の民間福祉施設・福祉団体等に配分され、約60%は地域配分として柏市社会福祉協議会が行う地域福祉事業に配分されます。



*平成18年度配分計画

区 分	金 額	内 容
老人福祉活動	48 万円	介護予防、団体助成等
障害児・者福祉活動	78 万円	SPコード普及、団体助成等
児童・青少年福祉活動	33 万円	子育て支援、団体助成等
母子・父子福祉活動	55 万円	誕生日家族食事会、団体助成等
ボランティア活動	437 万円	災害ボランティア支援等
地域福祉活動	469 万円	総合相談、世代間交流事業等
広報活動	645 万円	広報紙の発行等
合 計	1,765 万円	

●歳末たすけあい募金



お寄せいただいた募金は、民生委員児童委員を通じて生活困窮世帯への見舞金や施設入所者・福祉施設などに配分されるほか地域福祉事業に配分されます。

*平成17年度配分実績

区 分	対 象 者	金 額
生活困窮世帯	市内 207 世帯	3,603,000 円
施設入所者	34 か所 81 人	567,000 円
施設・団体	23 か所	2,300,000 円
地域福祉活動	地区社協、福祉教育、ボランティア等	3,605,000 円
合 計		10,075,000 円



街頭募金の様子

貸付事業

●貸付事業とは

低所得・障害者・高齢者世帯に対して、資金の貸付と民生委員および社協が必要な援助指導を行うことによって、その世帯の自立の助長や促進を図り、安定した生活を送れるよう支援することを目的とする制度です。

●福祉資金貸付制度（柏市社会福祉協議会自主事業）

*資金の種類

区分	種類	単位	貸付額	償還期間
一般貸付	生活資金	一世帯	20,000円以内	6か月以内
特別貸付	療養・入学・葬祭・出産・災害援護等の緊急的に貸付が必要と認められる場合	一世帯	100,000円以内	10か月以内

*平成17年度実績

貸付の種類	件数	金額
一般貸付	263件	4,859,000円
特別貸付	8件	764,500円
交通費貸付	131件	38,630円

●生活福祉資金及び老障資金（千葉県社会福祉協議会委託事業）

*資金の種類

生活福祉資金、高齢者及び重度障害者居室等増改築改造資金（老障資金）、離職者支援資金、長期生活支援資金

*平成17年度実績

	資金の種類	件数	金額
生活福祉資金	更生資金（技能習得費）	1件	1,620,000円
	福祉資金（福祉費）	3件	1,160,000円
	福祉資金（障害者自動車購入費）	3件	4,640,000円
	住宅資金	2件	2,300,000円
	修学資金（就学支度費含む）	15件	24,360,000円
	療養・介護資金（療養費）	3件	2,876,000円
	緊急小口資金	4件	170,000円
離職者支援資金		2件	1,400,000円

柏市地域健康福祉活動計画

●柏市地域健康福祉活動計画とは

市社協では、柏市が策定した「柏市地域健康福祉計画」を具体的に推進するため、地域住民や健康福祉活動団体の方々等との協働により、平成17年度に「柏市地域健康福祉活動計画」を策定しました。

この計画は、住民みんなで取り組む協働のしくみと意識づくりをすすめ、柏市の健康福祉活動の基盤をつくる3か年計画であり、活動の結実と成熟を目指す次期5か年計画（平成21～25年）につなげていくための健康福祉の手引書となっています。計画の理想は「だれもが、その人らしく、住み慣れた地域でいきいきと暮らせるまち 柏」です。

●計画のキーワード

「健康福祉」「協働」「社会福祉協議会」。特に「協働」では、市社協が民間における健康福祉活動の推進役として、プラットフォームという協働の場づくりを重要な施策として位置付けています。



計画策定委員会の様子

●計画の期間

平成18年～20年の3か年

●計画の目標

1. 健康福祉を担う「ひとづくり」「しくみづくり」を進めます。
2. みんなで健康づくりと生活の自立を目指します。
3. 新たな健康福祉の課題に取り組みます。

●計画の構成

3つの活動主体別個別計画で協働をテーマに一体化した健康福祉の行動計画です。

1. 地区別計画（地区社協24エリアを対象にした地区別の活動目標と取り組み）
2. 民間協働推進計画（民間における協働のあり方や推進方策）
3. 市社協発展・強化計画（市社協の基盤強化と支援活動の指針）

●計画の推進方法

計画づくりで行われた地区懇談会、北部・中部・南部の市域ゾーン別フォーラム、計画最終年度に市内地域活動者・団体が結集して開催される健康福祉フォーラムなど、自己評価と相互評価を計画推進の柱に据え、活動の実践、点検評価、そして見直しを一連の作業とするPDCAサイクルを活用して、活動内容の充実を図ります。

●健康福祉活動の手引書「柏市地域健康福祉活動計画」の概要

柏市地域健康福祉活動計画書（本編）

（地区別計画・民間協働推進計画・市社協・発展強化計画）



地域、民間組織・団体等、市社協による三つの主体別個別計画を一冊にまとめ、協働をテーマにひとつの活動計画としています。

- ①地区別計画…24地区別の地域課題や活動テーマを明らかにし、住民が中心となって取り組む地域づくりの根幹をなす計画です。
- ②民間協働推進計画…市内のボランティアグループ・NPO法人、福祉事業者、当事者団体、医療機関、また企業や商店会、学校などの協働による健康福祉の推進に向けた計画です。
- ③市社協発展・強化計画…地域における健康福祉活動推進の中心的役割を担う市社協の基盤強化と活動の計画です。
特に、地域活動主体への市社協としての支援方策や協働の方向性とそのあり方を指針として明記しています。

地区別計画書（別冊）



本編で取り上げた、地区別計画は、地域住民のワークショップにより策定され、1地区6ページ、概要を含め全155ページの冊子は、地域活動の手引書として活用されています。

- ①地区懇談会の実施…地区社協24区域を対象に地区懇談会を開催し、各地区4～5回、全98回の懇談会に延べ2,272人の地域住民の参画を得ました。
- ②計画への反映…各地区で「重点目標」を掲げ、それぞれの地域性に基づいた今後の活動指針を計画に反映させ、行政計画と共有します。

民間活動に関する地域健康福祉活動調査報告書



ボランティアグループや福祉事業者など、市内で活動する健康福祉関係の582団体を対象に実施され、回答を頂いた250団体の実態調査をもとに民間協働推進計画が策定されています。

報告書は、各団体の健康福祉への取り組みに対する現状や課題を浮き彫りにし、悩みを共有することで、健康福祉に関わる民間組織・団体等の今後の取り組みの方向と可能性を探る貴重なデータ集となっています。

地区社会福祉協議会活動への支援と連携

●地区社会福祉協議会とは

「ふれあいと支えあいのある心豊かな福祉社会」を築くことをめざし、より地域に密着した福祉活動に取り組めるよう市内を24地域に区分し、地区社会福祉協議会（通称「地区社協」）が組織されています。

地区社協は、地域の個々の目的をもった組織・団体が協力しあい、横断的な取り組みや情報を共有できるようネットワークを形成し、その地域で起きている身近な問題をその地域に住む人たちが自分の手で解決していけるように、会務の運営から各種会議・研修及び活動事業を展開しています。



●地区社会福祉協議会組織の経緯

住民参加の地域福祉事業を展開するため、町会・自治会及び法定単位民生委員児童委員協議会の協力を得て、昭和50年に住民福祉連絡協議会を発足。翌年、法定単位民生委員児童委員協議会の地区に準じ、住民福祉地区協議会として組織しました。以降、地域福祉を推進する組織として、当時の具体的な事業は敬老会、三世代ふれあいの集い、ひとり暮らし高齢者の集いを柏市からの受託事業として実施しました。

昭和62年の千葉県地域ぐるみ福祉推進計画に沿った地域ぐるみ福祉のネットワークづくりを進めるため、小域福祉圏地域ぐるみ福祉ネットワーク事業推進委員会として設置改名し強化充実を図りました。

平成8年の千葉県の第3次計画により、地区社会福祉協議会として移行し現在に至っています。この間、法定単位民生委員児童委員協議会の地区が分割するたびに、小域福祉圏地域ぐるみ福祉ネットワーク事業推進委員会（現在の地区社会福祉協議会）も分割設置しました。

平成17年3月の市町合併に伴い、沼南町の大津ヶ丘、風早北部、風早南部、高柳、手賀の5地区を加え、現在24地域の地区社会福祉協議会が活動しています。

●地区社会福祉協議会の主な活動

誰もが安心していきいきと暮らせる地域を目指して、それぞれの地区の特性に応じた、ひとづくり、しくみづくり、健康づくり、生きがいくづくり、自立支援など、様々な助けあい支えあい活動が地区社協では実践されています。



介護講座



ふれあい喫茶開設

*地区社協の具体的な活動例

活動項目	活動例
地域啓発育成活動	広報紙の発行、住民福祉アンケート調査、福祉情報の収集提供、ボランティア育成講座・研修会、介護（予防）講座、福祉学習会など
生活支援活動	高齢者ふれあいサロン、子育てふれあいサロン、ふれあい喫茶、要援護者声かけ訪問活動、支えあい友愛訪問、地域よろず相談、世代間交流教室事業（ふれあい給食）など
住民福祉交流活動 （福祉イベント）	敬老会、敬老祝品の配布、高齢者鉢花配布事業、ふれあいの集い、ひとり暮らし高齢者の集いなど

●平成15～17年度の実績報告書

毎年度、各地区社会福祉協議会の実績を一つの報告書としてまとめ、配布しています。

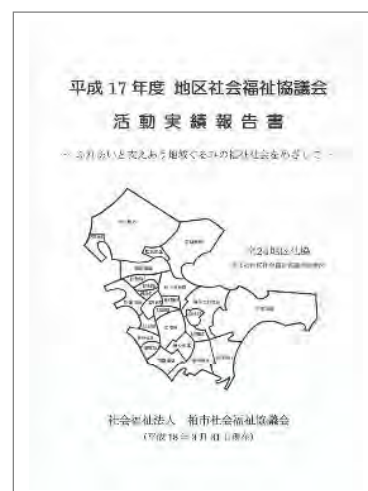
報告書の中には、地区社協事業、地区内の助けあい支えあい活動、人口データ等が盛り込まれています。



平成15年度版



平成16年度版



平成17年度版

●各地区社協の設置及び人口等の状況

平成 18 年 4 月 1 日現在

	地 区 社協名	小域福祉圏 初回推進委員会 設置年月日	地区社協 (移行) 設置年月日	人 口 (人)	14歳以下 人口比 (%)	65歳以上 人口比 (%)	世帯数 (世帯)	自 治 組織数 (数)
1	柏 中 央	昭和 63 年 2 月	平成 12 年 7 月	23, 125	13. 5	14. 2	9, 448	22
2	新 田 原	平成 8 年 7 月	平成 11 年 4 月	14, 249	11. 8	19. 8	4, 466	12
3	永 楽 台	昭和 63 年 4 月	平成 10 年 4 月	11, 581	14. 7	19. 0	4, 296	7
4	富 里	昭和 63 年 10 月	平成 10 年 7 月	18, 172	14. 2	14. 8	7, 017	9
5	豊四季台西	昭和 63 年 3 月	平成 10 年 6 月	21, 874	13. 1	16. 0	8, 463	12
6	豊四季台	昭和 63 年 12 月	平成 12 年 4 月	7, 381	7. 3	32. 0	4, 500	1
7	旭 町	昭和 62 年 11 月	平成 10 年 4 月	11, 279	14. 9	12. 3	6, 027	8
8	新 富	昭和 62 年 12 月	平成 10 年 4 月	18, 899	14. 9	13. 4	6, 634	9
9	高 田	平成元年 4 月	平成 11 年 8 月	16, 251	14. 9	13. 8	5, 843	11
10	松 葉	昭和 63 年 5 月	平成 13 年 7 月	12, 857	11. 4	12. 5	4, 635	18
11	田 中	昭和 63 年 9 月	平成 11 年 5 月	31, 502	13. 8	14. 2	8, 673	19
12	西 原	昭和 63 年 2 月	平成 10 年 6 月	16, 834	13. 8	18. 0	5, 307	14
13	富 勢	昭和 63 年 12 月	平成 11 年 7 月	24, 903	12. 8	16. 6	8, 565	22
14	土	昭和 63 年 12 月	平成 10 年 2 月	22, 203	13. 7	18. 2	7, 361	21
15	藤 心	平成 8 年 8 月	平成 11 年 1 月	14, 074	13. 2	19. 1	4, 152	14
16	光ヶ丘	昭和 63 年 8 月	平成 10 年 7 月	17, 787	14. 2	17. 8	6, 052	9
17	南光ヶ丘	昭和 63 年 3 月	平成 10 年 5 月	12, 949	13. 1	19. 8	4, 432	6
18	酒 井 根	平成 8 年 5 月	平成 12 年 4 月	12, 100	14. 5	18. 2	3, 563	6
19	南 部	昭和 63 年 4 月	平成 10 年 9 月	22, 309	14. 3	16. 1	7, 526	19
20	大津ヶ丘	平成 3 年 3 月	平成 9 年 4 月	9, 340	11. 7	16. 3	3, 405	13
21	風早北部	平成 2 年 1 月	平成 11 年 10 月	7, 750	12. 9	16. 7	2, 541	5
22	風早南部	平成 2 年 3 月	平成 11 年 5 月	8, 363	13. 6	13. 5	2, 471	4
23	高 柳	平成元年 3 月	平成 10 年 4 月	16, 349	16. 5	13. 7	5, 818	3
24	手 賀	昭和 63 年 3 月	平成 10 年 4 月	5, 343	11. 7	21. 4	1, 102	9
合 計				377, 474	13. 6	16. 4	132, 297	273

※人口等の数値は、柏市社会福祉協議会が独自に算出した数値である。

福祉総合相談事業（心配ごと相談を含む）

●総合相談

福祉関係の総合相談窓口として、分野を問わず、生活にまつわる様々な相談を受けています。平成17年度は、来所529件、電話340件、その他17件の合計886件の相談がありました。

*平成17年度相談実績

相談事項	件数	相談事項	件数	相談事項	件数
生計問題	781件	家族関係	5件	財産関係	4件
権利擁護・成年後見	18件	知的障害関係	5件	青少年関係	3件
精神障害関係	17件	地域福祉活動関係	5件	医療関係	3件
高齢者関係	17件	身体障害関係	4件	その他	24件
合 計 886件					

●心配ごと相談所

生活の中での様々な悩みや困りごと、心配ごとについて、心配ごと相談員が相談に応じます。水・木・土曜日の午前10時から午後3時まで開設しています（平成17年度は年間183日）。

*平成17年度相談実績

エリア	会 場	開設日数	相談件数
中 央	柏市教育福祉会館	97日	183件
南 部	沼南支所、沼南社会福祉センター	84日	84件
北 部	松葉近隣センター、西原近隣センター体育館	2日	5件

*平成17年度相談内容

相談事項	件数	相談事項	件数	相談事項	件数
家族	55件	苦情	16件	医療	10件
人権・法律	22件	職業・生業	13件	健康・保健・衛生	8件
生計	18件	財産	13件	老人福祉	8件
離婚	16件	住宅	11件	その他	82件
合 計 272件					

世代間交流（教室）事業

地域の高齢者と児童のふれあいを目的に、小学校給食を利用した交流教室を実施しています。地区内に居住するひとり暮らし・閉じこもりがちな高齢者が毎回10人、平成17年度は、約560人が参加しています。



世代間交流(教室)事業の様子



世代間交流(教室)事業の様子

*実施小学校及び実施主体地区社協名

開始年度	小学校	地区社協
平成12年度	柏市立高田小学校	高田地区社協
平成13年度	柏市立富勢西小学校	富勢地区社協
	柏市立富勢東小学校	
平成14年度	柏市立名戸ヶ谷小学校	新田原地区社協
		永楽台地区社協
平成15年度	柏市立旭小学校	旭町地区社協
		新富地区社協
平成17年度	柏市立田中北小学校	田中地区社協

ボランティア・市民活動支援事業

ボランティア及び市民活動団体等の養成・育成

●ボランティアセンターとは

ボランティアセンターでは、みなさんから寄せられる「ボランティア活動をしてみたい」「ボランティアのサポートが欲しい」等、ボランティアに関する様々な相談に対し、ボランティアコーディネーターがお話を聞き、その内容や希望にあった情報提供や活動先・活動者の紹介等の支援を行っています。また、様々な講座や研修会を開催し、ボランティア活動者の育成やサポート等、ボランティア活動の推進に努めています。

●ボランティア相談、登録及び紹介事業

*平成17年度実績

相談内容	活動関係	登録関係	派遣依頼	その他	合計
件数	394件	55件	23件	630件	1,102件

●ボランティア登録（個人・団体）、ボランティア連絡協議会加入

*平成17年度実績

	社協登録	ボランティア連絡協議会加入
グループ	89グループ 2,537人	44グループ 1,495人
個人	161人	
合計	2,698人	1,495人

●ボランティアの育成講座

ボランティア活動等に関する講座・研修等を開催し、活動のきっかけづくりや新たな人材の育成・養成を行っています。

*平成17年度実績

講座	回数
手話講習会（手話入門講座）	40回
手話講習会（手話基礎講座）	40回
要約筆記講習会	26回
点訳奉仕員養成講座	10回
精神保健ボランティアフォローアップ講座	1回
朗読奉仕講習会	20回
福祉有償運送「安全運転管理」勉強会	1回
運転協力者講習会	2回
合計	140回



高齢者疑似体験



手話講習会

●ボランティア大会（柏市ボランティア連絡協議会主催）

ボランティアの資質向上、ボランティア相互の情報交換や交流及びボランティア活動の推進を図るため、講演会及び交流会を開催しています。

*平成 17 年度実績

講演会「改正介護保険法と私たちの取り組み」
交歓会&発表会、グループの活動発表など



●ふれあい型食事サービスの実施

各地区のひとり暮らし高齢者を対象に、ボランティアが中心となって手作り弁当の配食（会食）を実施しています。

*富里地区社協とみさと会 *みのり会富勢地区
*みのり会土地区 *ゆずり葉の会（沼南地区）
*みのり会中央地区



ふれあい型食事サービス(ゆずり葉の会)

福祉教育

●福祉教育指定校

すべての人を個人として尊重し、思いやりの心を持って助けあう気持ちを育て、共に生きる人間の育成を目指すために、12校を福祉教育指定校として指定し、補助金を交付しています（平成17年度 1校100,000円）。



高齢者擬似体験の様子

*平成 17 年度指定校（10 校）

旭 小	柏第四小	土 小	酒井根小	手賀西小
酒井根中	光ヶ丘中	大津ヶ丘中	東葛飾高	沼南高柳高

*平成 18 年度指定校（12 校）

柏第四小	土 小	酒井根小	手賀西小	柏第二小	高柳小
酒井根中	大津ヶ丘中	高柳中	東葛飾高	沼南高柳高	二松学舎沼南高

●「福祉の心」作品展

市内の小・中・高等学校の児童・生徒を対象に、福祉に関するポスター・作文・標語を募集し、相互の思いやりと生きがいに満ちた“こころ豊かなまちづくり”の推進に努め、福祉に対する意識の高揚を図っています。

平成17年度の作品展には、ポスター208点、作文256点及び標語54点の応募がありました。入賞作品は「文集“ともに生きる”第25号」に収録し、市内小・中・高等学校に配布しました。

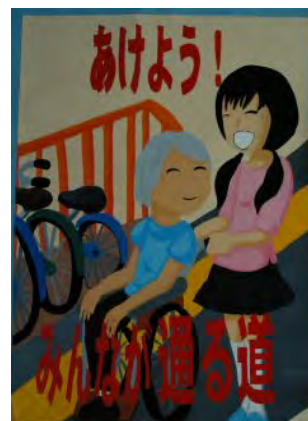
*平成17年度最優秀賞 ポスターの部



酒井根西小
佐久間 浩輝さん



光ヶ丘小
渡辺 萌さん



光ヶ丘中
太田 響子さん

標語の部

「思いやり 手を差し出せば 笑顔あり」
(光ヶ丘小 河本 歩さん)

作文の部

「おばあちゃんの笑顔に元気づけられて」
(松葉第一小 富樫 みのりさん)

「ボランティアの心」
(酒井根中 湊 愛里さん)



「福祉の心」作品展の様子

●夏季ボランティア体験

各福祉施設・団体の協力を得て、夏休みにボランティア体験をしたい青少年（小学生から大学生まで）を対象とした体験学習を実施しています。また、体験学習の受入先を紹介した冊子「夏ボラのススメ」を発行し、ボランティア体験へのきっかけづくりや情報提供をしています。



●夏休みボランティア体験教室

ボランティア団体の協力を得て、小学生（4年生～6年生）を対象に、夏休み期間中を利用したボランティア体験教室を実施しています。

*平成17年度実績

参加者 11人
協力団体 手話サークルかしわの会
点字サークルいなほ会



点訳のお話

●福祉体験講座への支援

福祉体験学習を企画した団体・学校へ講師として出向き、福祉教育の普及・啓発を支援しています。



*平成17年度実績

派遣先	回数	内容
沼南高等学校	2回	車いす体験
柏第一小学校	1回	福祉会館見学、福祉について
二松学舎沼南高等学校	2回	視覚障害者体験、高齢者擬似体験、車いす体験
沼南高等学校	2回	視覚障害者体験
手賀西小学校	1回	高齢者擬似体験
柏第七小学校	1回	車いす体験
豊小学校	1回	車いす体験
大津ヶ丘第一小学校	2回	車いす体験
田中小学校	1回	車いす体験
松葉地区社協	1回	高齢者擬似体験、車いす体験
三井・柏自治会	1回	高齢者擬似体験、車いす体験
健康推進課(パソコンで支えあい講座)	1回	高齢者擬似体験、車いす体験

福祉サービス利用援助事業

地域福祉権利擁護事業（福祉サービス利用援助事業） かしわ広域後見支援センター

●地域福祉権利擁護事業とは

判断能力が十分でないために適切なサービスの提供を受けられない方々に対して、福祉サービスの利用手続きの援助や代行、金銭管理、財産保全サービスを行うことで地域での自立した生活を支援することを目的として、事業を実施しています。



パンフレット

●サービス内容・利用料等

サービス名	サービス内容	利用料等
福祉サービス利用援助	福祉サービスの利用に関する情報提供・助言、手続等の援助	援助時間 30 分まで 500 円 以降 30 分を超えるごとに 500 円を加算
財産管理サービス	生活に必要な預貯金の預け入れ や払い戻しの手続き	
財産保全サービス	財産を金融機関の貸金庫に保管	3,000 円（年額）
弁護士・司法書士・社会 福祉士紹介サービス	成年後見制度の利用を希望され ている方に弁護士等を紹介	無料

※年会費：3,600 円

※生活保護受給者は無料

●相談・契約件数

*平成 17 年度実績

相談件数

対象者	件数
高齢者	133 件
知的障害者	0 件
精神障害者	12 件
その他	0 件
合計	145 件

契約件数

エリア	件数
柏市	39 件
野田市	4 件
我孫子市	10 件
合計	53 件

●成年後見無料相談会

年 1 回、社団法人成年後見センター・リーガルサポート千葉県支部との共催により、司法書士による成年後見や遺言に関する相談会を実施しています。

高齢者福祉事業

老人福祉センターの管理・経営（指定管理者）

●老人福祉センターとは

老人福祉センターは、高齢者の皆様の生活を健康で明るいものにするため各種の相談に応じるとともに、介護予防や健康の増進、教養の向上、レクリエーションなど、福祉増進を図るための施設です。

●各施設の概要

名 称	住所・電話番号	施 設
柏寿荘	柏市船戸 535 04-7131-9511	大広間、娯楽室、浴室、健康増進室、機能訓練室、ビリヤード室、陶芸室、講座室、茶室、庭園、卓球室
中央老人福祉センター	柏市柏 5-8-12 04-7163-9356	大広間、娯楽室、浴室
南部老人福祉センター	柏市藤心 293-1 04-7176-6151	大広間、多目的室、浴室、和室、会議室、健康増進室、卓球室、陶芸室、茶室、図書室
沼南老人福祉センター (いこい荘)	柏市塚崎 1356 04-7192-1401	集会室、浴室、作業室、図書コーナー、機能訓練コーナー、和室、ゲートボール場

※開館時間：いずれも午前9:30～午後4:00

※休 館 日：日曜日(中央は月曜日)・祝日・年末年始



柏寿荘



中央老人福祉センター



南部老人福祉センター

●事業内容

*介護予防・世代間交流事業

ストレッチ、陶芸、童謡、ウォーキング、絵手紙講座等

*健康相談

看護師による血圧測定や、健康に関する相談等



沼南老人福祉センター

「食」の自立支援事業

●配食サービス事業

在宅高齢者等への日常生活支援型のサービスとして、365日、夕食の配達と安否確認を実施しています。

平成17年度の実績は、105,223食です。



厨房の様子



配食車

●栄養改善事業

毎日の営みである「食べること」を通じて、低栄養状態（栄養のバランスに偏りのある食事を取ることで、本来必要な栄養を十分とれていない状態）の改善及びその重度化の予防を図るため、特定高齢者の方の個別相談や、老人福祉センターでの栄養相談を実施しています。

また、高齢者等が身近な地域において「食べる楽しさ」を共有でき、積極的に食に関する活動に参加できる地域づくりを支援するため、地域活動への訪問も実施し、フードモデルや食事バランスガイドなどで栄養改善の理解と普及を促進しています。



栄養相談

介護予防事業（介護予防センター「いきいきプラザ」の管理・経営を含む）

市内に4館ある老人福祉センターでは、年間を通じて高齢者を対象に、介護予防に関する講座を開催しています。

いきいきプラザでは、地域活動に関わる方を対象に、介護予防に関わる講座を開催しています。

平成17年度は、独立行政法人福祉医療機構の助成金を受け、市民と創る認知症高齢者介護啓発や研修会を実施しました。



認知症啓発の劇



介護予防講座(老人福祉センター)



認知症予防講座(いきいきプラザ)

シルバー事業

●シルバー作品展

趣味や学習活動を通じ創作した作品を展示し、広くその成果を披露することにより高齢者の学習意欲・創造性・技術の向上を図ることを目的として、柏市シルバー作品展を実施しています。

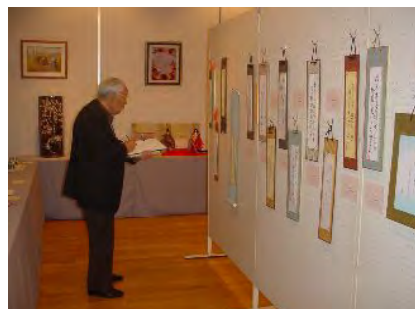
出展作品は、絵画、書道、陶芸、写真、手工芸、俳句・短歌・川柳の6部門からなっています。



書道・絵画作品



陶芸作品



書道・絵画・手工芸作品

障害者福祉事業

福祉カー（リフト付きワゴン車）の貸出

市内在住の心身障害者・高齢者（65歳以上）・福祉団体等を対象に、社会参加の促進を図るため、「リフト付きワゴン車」の貸出しを実施しています。

平成17年度の貸出件数は、111件です。



リフト付きワゴン車

車椅子の貸出

緊急的かつ一時的に車椅子を必要とする方に対し、最長6か月まで無料で車椅子を貸し出しています。



貸出用の車椅子

精神障害者福祉事業

精神障害者家族会「よつば会」との共催により、市民を対象に、精神障害の特性や障害者・家族の悩みなどを正しく理解し、住み慣れた地域社会で生活できる環境づくりと地域との連携が図れるよう、講演会を実施しています。

*これまでの講演テーマ

年度	講演テーマ
平成13年度	「心の病」
平成14年度	「精神障害者と地域社会の連携を求めて」
平成15年度	「精神障害者が街のなかで暮らせる制度と仕組み」～精神障害者の地域生活におけるセイフティーネットを考える～
平成16年度	「誇り・ぬくもり・輝き」～まちの福祉と心の健康、柏からの発信～
平成17年度	「障害者が地域で暮らす」～障害者自立支援法をどう利用するか～



講演会の様子

児童・母子(父子)福祉事業

交通遺児援護金・激励金等の支給

交通事故により、父・母を失った18歳未満の遺児のいる世帯に対し、援護金等を支給しています。

*平成17年度実績 援護金支給

区分	支給月	世帯数	遺児数	支給額
援護金	8月	9世帯	12人	240,000円
	12月	11世帯	15人	300,000円
支度金	3月	1世帯	1人	50,000円
合計		21世帯	28人	590,000円

*平成17年度実績 勉学奨励金、激励金・見舞金支給

区分	世帯数	遺児数	支給額
激励金	1世帯	1人	30,000円
奨励金	3世帯	3人	30,000円
見舞金	1世帯	2人	90,000円
合計	5世帯	6人	150,000円

誕生日家族食事会

遺児手当を受給している父子・母子家庭を対象に、子どもの誕生日に家族で食事を楽しめる時間を過ごすことを目的として、誕生日家族食事券（2,000円相当）を配布しています。

*平成17年度実績

区分	配布数	使用数
対象世帯数	95世帯	79世帯
対象枚数	229枚	185枚

児童福祉月間の啓発

「こどもの日」にちなんで、市内公共施設・学校・スーパーへ児童福祉月間ポスターの掲示を依頼し啓発を行っています(平成17年度実績 ポスター配布数 約200枚)。

在宅福祉サービス事業

在宅福祉サービス事業（さわやかサービス）

●さわやかサービスとは

高齢者や障害をお持ちの方が住み慣れた家で安心して暮らせるよう、市民相互の支えあいを基盤に、会員制による住民参加型有償在宅福祉サービスを提供しています。

●サービス内容・利用料等

サービス名	サービス内容	利用時間	利用料金
生活援助サービス	調理、掃除、買物、洗濯、庭の草むしり、産前産後支援、入院中支援など	月～土 7:00～19:00 日・祝日・年末年始は休み	1時間 880円 その後 30分毎に 440円
介護サービス	外出、排泄、食事、更衣などの介助	月～土 9:00～17:00 日・祝日・年末年始は休み	1時間 1,100円 その後 30分毎に 550円
送迎サービス	車椅子利用者等への福祉車両での通院等の送迎（同乗者が必要）	月～土 9:00～17:00 日・祝日・年末年始は休み	市内 1回 440円 市外 1回 550円
緊急通報サービス	ホームネット㈱の安心ネットワークを会員価格で斡旋	24時間 (年中無休)	3,990円/月 別に機器設置料あり
相談事業	各種在宅福祉相談、訪問相談	月～土 9:00～17:00 日・祝日・年末年始は休み	無料
ビデオテープ貸出	介護方法等の福祉に関するビデオテープの貸出	月～土 9:00～17:00 日・祝日・年末年始は休み	無料

※年会費：1,200円

●登録・利用実績

*平成17年度実績

	利用会員	協力会員
登録数	756人	301人



送迎サービス こらくだくん

サービス名	利用件数	時間、距離等
生活援助サービス	7,918件	14,993時間
介護サービス	2,530件	3,324時間
送迎サービス	8,367件	124,537km
緊急通報サービス	加入 12件	11件 (出動件数 3件・電話確認件数 8件)

●人材育成・交流活動

＊平成17年度実績

内 容	回 数	参加者	備 考
協力会員登録時研修	7回	35人	新規登録協力会員を対象
講習会	12回	294人	介護保険等勉強会、介護実技、料理講習会・公開講座（一般市民も対象）
交流会	6回	183人	利用会員バスハイク、交流会等
移送サービス講習会	3回	100人	移送サービス運転協力者講習会、運転協力者フォローアップ講習会、安全運行管理勉強会



介護実技研修会



産前産後支援講習会

●普及啓発活動

会報「さわやかだより」を年4回発行し、会員・関係機関に配布しています。

(福) 柏市社会福祉協議会

会報 **さわやかだより**

第12号

平成18年7月25日発行

編集・発行
社会福祉法人 柏市社会福祉協議会
ボランティアセンター
さわやかサービス部
〒277-0924 柏市海戸1-2-8
TEL 04-7193-4040
FAX 04-7193-3161

柏市ホームページアドレス
http://www.kashiwa-shiyokyo.or.jp

緊急通報サービスで安心、安心！

日々の暮らしに笑顔が増えて...

協力会員 島村育子さんと！

利用会員の斎藤貞二さんは、最愛の奥様を早くに亡くされましたが、「自分のことは自分で」という信念のもと、お一人で頑張ってこられました。しかし年々、体力的に不安を感じる事が多くなり、昨年7月から緊急通報サービスのご利用となりました。

「まだ緊急ボタンを押したことはないけれど、安心に繋がっています。何時まで自分と…とはいかないでしょう。これからは、人の力を借ながら自分のできることを頑張っていかなければね…」と笑いながら語る斎藤さん。

現在は週1回の生活援助サービスも使い、協力会員さんと近くの公園に散歩に出掛けられるそうです。地域の資源を上手に使いながら、斎藤さんは前向きに在宅生活を送ってられます。

緊急通報サービスってどんなサービス？詳しくは次ページです。

ひとくすメモ

手洗いを再確認！

食中毒が心配なこの時期、ふだんの手洗いを見面しましょう。

①できれば液体せっけんを使う。

③歯先、指の間を洗いぬぐう。

⑤流水でよくすすぎます。

②両手をこすりあわせて全体を。

④手首も忘れずに。

⑥清潔なタオルで十分に拭く。

8月20日現在の会員状況	
利用会員	926人
協力会員	301人
8月の支えあい総数	
生活援助	842件
介護	201件
通 達	694件
送 迎	1,727件
平成18年7月の支えあい総数	4,829件

さわやかだより ①

さわやかだより 第12号

ファミリー・サポート事業

かしわファミリー・サポート・センター

●ファミリー・サポート・センターとは

安心して仕事と家庭を両立できる環境づくりをめざし、育児の援助を行うことを希望する人（協力会員）とその援助を受けることを希望する人（利用会員）で構成する会員相互による育児の援助活動の相談や支援を行っています。

●援助の時間・対象年齢

項目	内容
援助の時間	6:00～22:00
対象年齢	生後6か月以上10歳未満



●サービス内容・利用料等

サービス内容	利用時間	利用料金
保育園・施設等への送迎、冠婚葬祭や買物等外出の際の子どもの預かり	月～金 7:00～20:00	1時間 700円
	上記の時間帯以外の時間 土・日・祝日・年末年始	1時間 800円

※年会費：1,200円

●登録・利用実績

*平成17年度実績

	利用会員	協力会員	両方会員
登録数	716人	223人	32人

	援助活動 成立件数	援助活動 件数
利用件数	257件	11,589件



支援の様子



支援の様子

●入会説明・人材育成・交流活動

*平成17年度実績

内 容	回 数	参加者
入会説明会	11回	247人
基礎研修会（協力会員）	5回	35人
協力会員フォローアップ研修会	12回	280人
交流会	2回	355人
事例発表会	2回	47人
地区リーダー連絡調整会議	13回	260人



全体交流会



フォローアップ研修会

●普及啓発活動

かしわファミリー・サポート・センターの広報紙「ぞうさん通信」を年4回発行し、会員・関係施設に配布しています。

ぞうさん通信

かしわファミリー・サポート・センター

平成17年 4月15日発行

シンボルマークの「ぞうさん」

母親だけでなく群れの象と一緒に子育ての象を大切に育てていきます。美しい自然の中で大量に食べていかななくては生きていけない象の暮らしは、私たちが想像するよりもっと大変なものがあるのでしょう。子どもの象は、母親や大人の象の真似をしながら、草原での生活の仕方を覚えて大きくなっていきます。

平成13年2月1日発行
(ぞうさん通信新刊号より)

本部 船市臨早1-2-2 沼南社会福祉センター
TEL 04-7191-1925
FAX 04-7193-3161

支部 船市船5-8-12 教育福祉会館1F
TEL 04-7162-0330
FAX 04-7162-2558

◇事務所の開設時間 月曜日から金曜日 午前9時から午後5時まで

◇活 動 時 間 月曜日から土曜日 午前9時から午後5時まで

◇休 所 日 日曜日、祝日、年末年始(12月29日から1月3日)

◇船市社会福祉協議会ホームページ <http://www.kashiwa-shakyo.or.jp>

ぞうさん通信

自主財源拡充事業

会員・会費

社会福祉協議会は、地域福祉の推進を図ることを目的とする民間団体です。市民の皆様や団体・企業などに会員になっていただき、地域の人々や柏市、保健・医療・福祉等の機関と連携を図りながら、公的な施策だけでは対応しきれない福祉の課題に取り組んでいます。

事業を進めるための主な財源は、補助金や委託費などの「公費財源」と、住民会費や共同募金などの「民間財源」です。中でも会費は社協の最も重要な自主財源であり、事業の経営を支えています。

会員種類	説明	会費額
住民会員	本市社会福祉協議会に関心を有し、本会事業に理解を有する町会・区又は自治会単位で入会したもの。	1世帯当たり 年額 300円
個人会員	本会事業に理解を有する個人で入会したもの	1口 年額 1,000円
団体会員	福祉活動団体、福祉施設及び本会事業の後援者として団体で入会したもの。	1口 年額 5,000円
特別会員	本会活動や事業に賛同し、特に財政的に支援する法人、個人及び団体で入会したもの。	1口 年額 10,000円

*会員の状況（平成17年度）

会員種類	会費の額	納入会員数	納入額
住民会員	1世帯 年額 300円	267	28,022,040円
個人会員	1口 年額 1,000円	907	1,401,000円
団体会員	1口 年額 5,000円	27	200,000円
特別会員	1口 年額 10,000円	309	3,423,260円
合計		1,510	33,046,300円

*会員の状況（平成16年度）

会員種類	会費の額	納入会員数	納入額
普通会員	1世帯 年額 200円	241	19,436,535円
協賛会員	1口 年額 1,000円	105	229,000円
賛助会員	1口 年額 5,000円	73	572,000円
法人会員	1口 年額 10,000円	313	3,508,260円
合計		732	23,745,795円

*住民会費の使途（平成17年度）

区 分	充当額	充当区分別構成比
企画・広報事業	4,787,532 円	17.1%（51 円）
地域福祉活動推進事業	10,067,261 円	36.0%（108 円）
ボランティア活動推進事業	2,569,119 円	9.1%（27 円）
市社協事業の運営	10,598,128 円	37.8%（114 円）
合 計	28,022,040 円	100.0%（300 円）

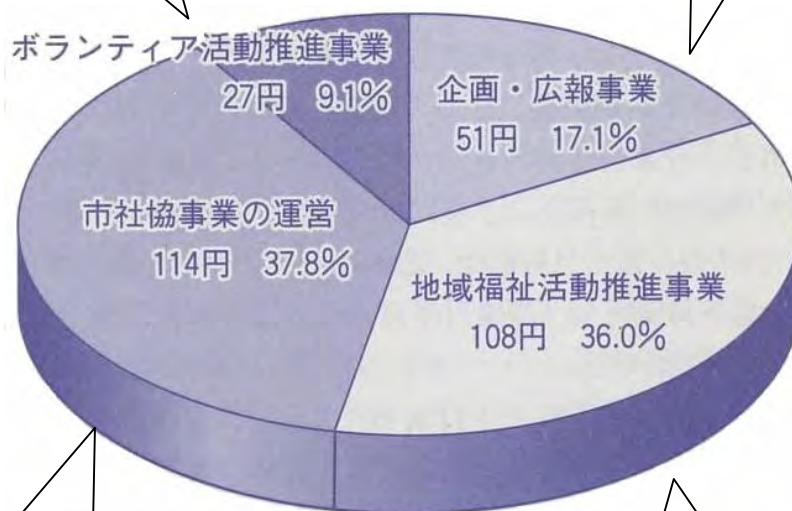
* ボランティア活動推進事業

- ・ ボランティアセンターの運営
- ・ ボランティア及び市民活動団体等の養成・育成
- ・ ボランティア相談
- ・ 福祉教育の推進

* 企画・広報事業

- ・ 広報紙「社協だより」の発行
- ・ 住民福祉大会の開催

住民会費300円の使途



* 市社協事業の運営

さわやかサービス、ファミリー・サポート・センター、福祉サービス利用援助事業、資金貸付事業等、事業を運営するための通信費や印刷性本費、消耗品費、パソコンや複写機の賃借費用等の事業運営経費

* 地域福祉活動推進事業

- ・ 地区社協活動への支援と連携
- ・ 町会、自治会等小地域における福祉活動支えあい活動への支援
- ・ 障害者福祉事業
- ・ 高齢者福祉事業
- ・ 福祉総合相談事業

収益事業（自動販売機設置）

社会福祉協議会の自主財源確保策として、自動販売機の設置経営にかかる収益事業を実施しています。

*設置場所及び設置台数（8か所18台）

設置場所	設置台数
柏市民文化会館	5台
いきいきプラザ	1台
沼南社会福祉センター	2台
柏寿荘	1台
南部老人福祉センター	1台
沼南老人福祉センター	1台
沼南庁舎	4台
南部クリーンセンター	2台

その他

●寄せられた善意

当協議会の活動に対し、善意の寄付金等がたくさん寄せられました。一般寄付は、当協議会の諸事業の運営に充てています。指定寄付は、指定内容に合わせて交通遺児への援護金等に使用しています。また、物品預託は、市内福祉施設へ寄贈しています。

*寄付金（平成17年度）

種別	件数	金額
一般寄付	326件	7,325,968円
交通遺児指定寄付	16件	262,395円
指定寄付	16件	346,160円
合計	358件	7,934,523円

民生委員児童委員協議会事務局

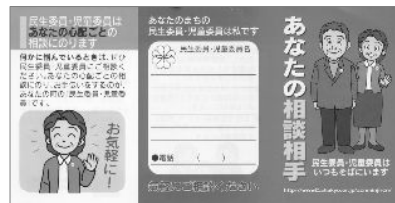
市社協では、民生委員児童委員協議会の事務局を担っています。

民生委員は、民生委員法・児童福祉法によって設置された地域住民を支援するボランティアです。全ての民生委員は、児童委員を兼ねています。児童委員は地域の児童が健やかに成長するための支援をします。また、民生委員児童委員の中に、児童に関わる相談・支援を専門に担当する主任児童委員がいます。

現在、民生委員児童委員は全国に約23万人おり、柏市は定数が482名（平成18年4月1日現在）となっています。

*民生委員児童委員の7つのはたらき

- ①社会調査
- ②相談
- ③情報提供
- ④連絡通報
- ⑤調整
- ⑥生活支援
- ⑦意見具申

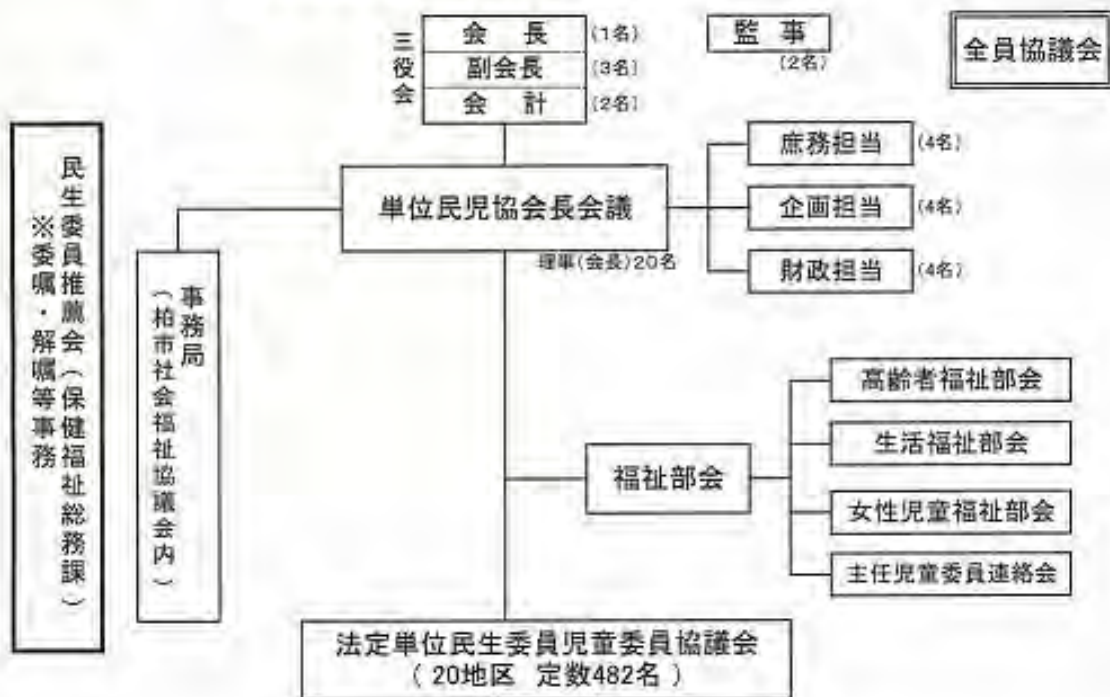


民生委員児童委員PRカード



単位民児協会長会議の様子

柏市民生委員児童委員協議会 組織図



老人クラブ連合会事務局

市社協では、老人クラブ連合会の事務局を担っています。

老人クラブは、高齢者が生きがいと健康づくり、地域福祉活動などに取り組み「自らの生活を豊かにする楽しい活動」と、高齢社会の主人公として、持っている知識や経験を生かして「地域を豊かにする社会活動」に取り組むということを明らかにし、老人クラブの存在と会員の自信と誇りを高めています。

*主な事業

- 老人クラブ大会
- グラウンドゴルフ大会
- じゅげむ芸能大会
- 囲碁・将棋大会
- シルバー運動会



じゅげむ芸能大会



柏市老人クラブ連合会大会

*平成18年度クラブ数・会員数

支部名	クラブ数	会員数
田中支部	7クラブ	349人
田中東支部	7クラブ	538人
西十余二支部	6クラブ	485人
富勢支部	8クラブ	403人
柏第一東支部	15クラブ	745人
柏第一西支部	15クラブ	834人
中央支部	11クラブ	556人
新田原支部	5クラブ	312人
永楽富里支部	12クラブ	871人
光ヶ丘支部	13クラブ	907人
土支部	6クラブ	404人
南部支部	12クラブ	732人
藤心支部	3クラブ	194人
沼南支部	22クラブ	946人
合計	142クラブ	8,276人

平成18年4月1日現在



資料

定款

第1章 総則

(目的)

第1条 この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、柏市における社会福祉事業その他の社会福祉を目的とする事業の健全な発達及び社会福祉に関する活動の活性化により、地域福祉の推進を図ることを目的とする。

(事業)

第2条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 社会福祉を目的とする事業の企画及び実施
- (2) 社会福祉に関する活動への住民の参加のための援助
- (3) 社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整及び助成
- (4) (1)から(3)のほか、社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業
- (5) 保健医療、教育その他の社会福祉と関連する事業との連絡
- (6) 共同募金事業への協力
- (7) 福祉資金貸付事業
- (8) 生活福祉資金貸付事業及び高齢者及び重度障害者居室等増改築・改造資金貸付事業
- (9) 心配ごと相談事業
- (10) 交通遺児等援護基金事業
- (11) 柏市老人福祉センターの管理・経営
- (12) 福祉サービス利用援助事業（かしわ広域後見支援センター）
- (13) かしわファミリー・サポート・センターの受託
- (14) 柏市介護予防センターいきいきプラザの受託運営
- (15) 住民参加型在宅福祉サービス事業（さわやかサービス事業）
- (16) 配食サービス事業の受託
- (17) その他法人の目的達成のため必要な事業

(名称)

第3条 この法人は、社会福祉法人柏市社会福祉協議会という。

(経営の原則)

第4条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を确实、効果的かつ適正に行うため、自主的に経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向

上並びに事業経営の透明性の確保を図るものとする。

(事務所の所在地)

第5条 この法人の事務所を、千葉県柏市柏五丁目11番8号に置く。

第2章 役員

(役員の数)

第6条 この法人には、次の役員を置く。

(1) 理事 18名

(2) 監事 2名

2 役員を選任に当たっては、各役員について、その親族その他特殊の関係がある者が、理事のうち3名を超えて含まれてはならず、監事のうちこれらの者が含まれてはならない。

(会長、副会長の選任及び法人の代表権)

第7条 この法人に、理事たる会長1名、副会長3名を置き、理事の互選により選任する。

2 会長は、会務を統括し、この法人を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、あらかじめ会長の指名した副会長が、順次にその職務を代理する。

4 会長、副会長に事故あるとき、又は欠けたときは、あらかじめ会長の指名した理事が、順次にその職務を代理する。

5 会長個人と利益相反する行為となる事項及び双方代理となる事項については、第2項の規定にかかわらず、理事会において選任する他の理事が会長の職務を代理する。

(常務理事)

第8条 この法人に常務理事1名を置き、理事の中から会長が指名する。

2 常務理事は会長、副会長を補佐し、会長の命を受けて、この法人の常務を処理する。

(役員任期)

第9条 役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠により就任した役員任期は、前任者の残任期間とする。

3 会長、副会長、常務理事任期は、理事としての在任期間とする。

(役員選任等)

第10条 理事は、評議員会において選任し、会長が委嘱する。

2 監事は、評議員会において選任する。

3 監事は、この法人の理事、評議員、職員及びこれらに類する他の職務を兼任することができない。

(役員報酬等)

第11条 役員報酬については、勤務実態に即して支給することとし、役員地位にあることのみによっては、支給しない。

- 2 役員には費用を弁償することができる。
- 3 前2項に関する規程は、理事会の議決を経て、会長が別に定める。

(理事会)

第12条 この定款に別段の定めのあるもののほか、この法人の業務の決定は、理事をもって組織する理事会によって行う。ただし、日常の軽易な業務は会長が専決し、これを理事会に報告する。

- 2 理事会は、会長がこれを招集する。
- 3 会長は、理事総数の3分の1以上の理事又は監事から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から1週間以内にこれを招集しなければならない。
- 4 理事会に議長を置き、議長はその都度選任する。
- 5 理事会は、理事総数の3分の2以上の出席がなければ、その議事を開き、議決することができない。
- 6 前項の場合において、あらかじめ書面をもって、欠席の理由及び理事会に付議される事項についての意思を表示した者は、出席者とみなす。
- 7 理事会の議事は、法令に特別の定めがある場合及びこの定款に別段の定めがある場合を除き、理事総数の過半数で決定し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 8 理事会の決議について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることはできない。
- 9 議長及び理事会において選任した理事2名は、理事会の議事について議事の経過の要領及びその結果を記載した議事録を作成し、これに署名又は記名押印しなければならない。

(監事による監査)

第13条 監事は、理事の業務執行の状況及び法人の財産の状況を監査しなければならない。

- 2 監事は、毎年定期的に監査報告書を作成し、理事会、評議員会及び千葉県知事に報告するものとする。
- 3 監事は、前項に定めるほか、必要があると認めるときは、理事会及び評議員会に出席して意見を述べるものとする。

第3章 顧問

(顧問)

第14条 この法人に顧問若干名を置く。

- 2 顧問は、理事会の同意を得て会長が委嘱する。
- 3 顧問は、この法人の業務について会長の諮問に答え又は意見を具申する。
- 4 任期については、役員の任期に準ずる。

第4章 評議員及び評議員会

(評議員及び評議員会)

第15条 この法人に、評議員会を置く。

- 2 評議員会は、40名の評議員をもって組織する。
- 3 評議員会は、会長が招集する。
- 4 会長は、評議員総数の3分の1以上の評議員又は監事から会議に付議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から20日以内に、これを招集しなければならない。
- 5 評議員会に、議長を置く。
- 6 評議員会の議長は、その都度評議員の互選とする。
- 7 評議員会は、評議員総数の過半数の出席がなければ、その議事を開き、議決することができない。
- 8 前項の場合において、あらかじめ書面をもって、欠席の理由及び評議員会に付議される事項についての意思を表示した者は、出席者とみなす。
- 9 この定款に別段の定めのあるもののほか、評議員会の議事は、評議員総数の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 10 評議員会の決議について、特別の利害関係を有する評議員は、その議事の議決に加わることはできない。
- 11 議長及び評議員会において選任した評議員2名は、評議員会の議事について議事の経過の要領及びその結果を記載した議事録を作成し、これに署名又は記名押印しなければならない。
- 12 評議員の報酬については、勤務実態に即して支給することとし、評議員の地位にあることのみによっては、支給しない。
- 13 評議員には費用を弁償することができる。
- 14 前2項に関する規程は、理事会の議決を経て、会長が別に定める。

(評議員会の権限)

第16条 この定款に別段の定めのある場合を除くほか、次に掲げる事項については理事会の議

決を経て、原則として評議員会の議決を得なければならない。

- (1) 予算、決算、基本財産の処分、事業計画及び事業報告
- (2) 予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄
- (3) 定款の変更
- (4) 合併
- (5) 解散（合併又は破産による解散を除く。以下この条において同じ。）
- (6) 解散した場合における残余財産の帰属者の選定
- (7) その他この法人の業務に関する重要事項で、理事会において必要と認める事項

2 評議員会は、この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え又は役員から報告を徴することができる。

（評議員の資格等）

第17条 評議員は、社会福祉事業に関心を持ち、又は学識経験ある者で、この法人の趣旨に賛同して協力する者の中から理事会の同意を得て、会長が委嘱する。

2 評議員の委嘱に当たっては、各評議員について、その親族その他特殊の関係がある者が3名を超えて含まれてはならない。

3 評議員の選任に関する規程は、別に定める。

（評議員の任期）

第18条 評議員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠によって就任した評議員の任期は、前任者の残任期間とする。

第5章 会員

（会員）

第19条 この法人に、会員を置く。

2 会員は、この法人の目的に賛同し、目的達成のため必要な援助を行うものとする。

3 会員に関する規程は、別に定める。

第6章 委員会

（委員会）

第20条 この法人に、委員会を置く。

2 委員会は、専門的事項について、この法人の運営に参画し、或いは会長の諮問に答え、又は意見を具申する。

3 委員会に関する規程は、別に定める。

第7章 事務局及び職員

(事務局及び職員)

第21条 この法人の事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 この法人に、事務局長を1名置くほか、職員若干名を置き、会長が任免する。
- 3 事務局及び職員に関する規程は、別に定める。

第8章 資産及び会計

(資産の区分)

第22条 この法人の資産は、これを分けて基本財産、運用財産、公益事業用財産及び収益事業用財産の四種とする。

- 2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

(1) 現金 4,000,000円

(2) 建物 千葉県柏市風早一丁目2番地2所在

鉄筋コンクリート造陸屋根3階建 事務所 1棟 (1836.98㎡)

- 3 運用財産は、基本財産、公益事業用財産及び収益事業用財産以外の財産とする。
- 4 公益事業用財産及び収益事業用財産は、第31条に掲げる公益を目的とする事業及び第33条に掲げる収益を目的とする事業の用に供する財産とする。
- 5 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第2項に掲げるため、必要な手続きをとらなければならない。

(基本財産の処分)

第23条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意を得、評議員会の議決を経て千葉県知事の承認を得なければならない。ただし、社会福祉・医療事業団に対して基本財産を担保に供する場合には、千葉県知事の承認は必要としない。

(資産の管理)

第24条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、会長が管理する。

- 2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、管理するものとする。

(特別会計)

第25条 この法人は、特別会計を設けることができる。

(予算)

第26条 この法人の予算は、毎会計年度開始前に、会長において編成し、理事総数の3分の2以上の同意を得、評議員会の議決を得なければならない。

(決算)

第27条 この法人の事業報告書、財産目録、貸借対照表及び収支計算書は、毎会計年度終了後2月以内に会長において作成し、監事の監査を経てから、理事会の認定を得、評議員会の承認を受けなければならない。

2 前項の承認を受けた書類及びこれに関する監事の意見を記載した書面については、各事務所に備えて置くとともに、この法人の会員及びこの法人が提供する福祉サービスの利用を希望する者その他の利害関係人から請求があった場合には、正当な理由がある場合を除いて、これを閲覧に供しなければならない。

3 会計の決算上繰越金を生じたときは、次会計年度に繰り越すものとする。ただし、必要な場合には、その全部又は一部を基本財産に編入することができる。

(会計年度)

第28条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終る。

(会計処理等)

第29条 この法人の会計処理状況は、常に明確にしておかななければならない。

2 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第30条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意を得、評議員会の議決を得なければならない。

第9章 公益を目的とする事業

(種別及び運営管理)

第31条 この法人は、社会福祉法第26条の規定により、次の事業を行う。

- (1) 沼南社会福祉センターの設置経営
- (2) 柏市地域福祉センターの管理・経営

2 前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の3分の2以上の同意を得なければならない。

(剰余金が出た場合の処分)

第32条 前項の規定によって行う事業から剰余金が生じた場合は、社会福祉事業又は公益事業に充てるものとする。

第10章 収益を目的とする事業

(種別及び運営管理)

第33条 この法人は、社会福祉法第26条の規定により、次の事業を行う。

(1) 自動販売機の設置経営

2 前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の3分の2以上の同意を得なければならない。

(収益の処分)

第34条 前条の規定によって行う事業から生じた収益は、この法人の行う社会福祉事業又は公益事業（社会福祉法施行令（昭和33年政令第185号）第4条に掲げるものに限る。）に充てるものとする。

第11章 解散及び合併

(解散)

第35条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

2 社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号に規定する解散をする場合には、理事総数の3分の2以上の同意を得、評議員会の議決により、千葉県知事の認可又は認定を受けなければならない。

(残余財産の帰属)

第36条 解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、理事総数の3分の2以上の同意を得、評議員会の議決により、社会福祉法人のうちから選出されたものに帰属する。

(合併)

第37条 合併しようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意を得、評議員会の議決により、千葉県知事の認可を受けなければならない。

第12章 定款の変更

(定款の変更)

第38条 この定款を変更しようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意を得、評議員会の議決により、千葉県知事の認可（社会福祉法第43条第1項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を千葉県知事に届け出なければならない。

第13章 公告の方法、その他

(公告の方法)

第39条 この法人の公告は、社会福祉法人柏市社会福祉協議会の掲示場に掲示するとともに、柏市広報紙及びこの法人の機関紙に掲載して行う。

(施行細則)

第40条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附 則

1 この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

理事	田中貞雄	理事	松崎良太郎
〃	仲澤まさの	〃	高橋庄次郎
〃	後藤正作	〃	豊島陽風
〃	日暮甚市	〃	伊藤紫朗
〃	友野友市	〃	石井正孝
〃	井上長次	〃	長山巍
〃	坂巻貞子	〃	平川徳之
〃	多田秀雄		
監事	及川清吉	監事	染谷喜市

2 この定款は、昭和47年3月21日から施行する。(認可)

附 則

この定款は、昭和55年9月25日から施行する。(一部変更認可)

附 則

この定款は、昭和59年12月27日から施行する。(一部変更認可)

附 則

1 この定款は、平成8年9月17日から施行する。

2 この定款施行の際、従前の規程によりなされた決定その他の手続きは、この定款によってなされたものとみなす。

附 則

この定款は、平成10年12月17日から施行する。(一部変更認可)

附 則

この定款は、平成12年3月30日から施行する。(一部変更認可)

附 則

この定款は、平成12年10月23日から施行する。(一部変更認可)

附 則

- 1 この定款は、平成13年4月16日から施行する。(一部変更認可)
- 2 平成13年4月6日付けの定款変更の許可申請に伴い増員された理事3名の任期は、定款第9条の規定にかかわらず、平成14年7月3日までとする。

附 則

この定款は、平成15年5月19日から施行する。(一部変更認可)

附 則

この定款は、平成16年6月14日から施行する。(一部変更認可)

附 則

- 1 平成16年12月24日付け千葉県知事認可の定款(以下「合併後の定款」という。)は、社会福祉法人沼南町社会福祉協議会(以下「沼南町社協」という。)との合併が成立した日(以下「施行日」という。)から施行する。(一部変更認可)
- 2 合併後の定款第6条第1項の規定の適用については、施行日から平成17年7月3日までの間にあっては、同項中「理事18名」を「理事21名」とする。
- 3 合併後の定款第15条第2項の規定の適用については、施行日から平成17年6月25日までの間にあっては、同項中「評議員40名」を「評議員45名」とする。
- 4 施行日の前日において、合併前の沼南町社協の理事のうち正副会長の職にあった者3名については、合併後の定款第10条第1項の規定にかかわらず、施行日において、合併後の社会福祉法人柏市社会福祉協議会理事に選任されたものとみなす。
- 5 第2項及び第3項の規定により、理事及び評議員に選任された者の任期は、合併後の定款第9条第1項又は第18条第1項の規定にかかわらず、理事については施行日から平成17年7月3日までの間、評議員については施行日から平成17年6月25日までの間とする。

附 則

この定款は、平成18年5月1日から施行する。(一部変更認可)

社会福祉協議会の組織図

組織図



業務内容

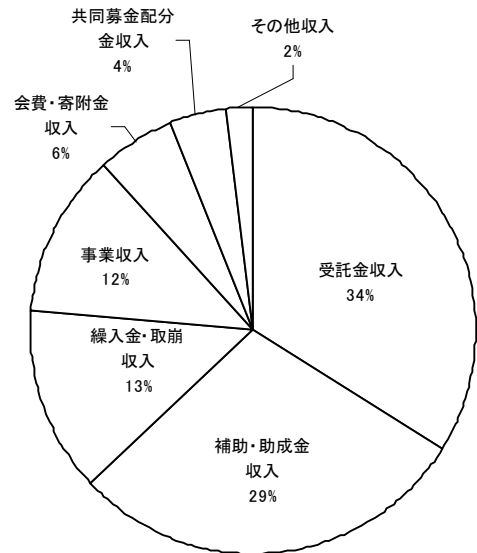
担 当	業 務 内 容
総務担当	運営、人事、財務、企画・調整等
地域福祉推進担当	地区社会福祉協議会、配食、団体事務局等
総合相談担当	心配ごと相談、貸付、広域後見支援センター等
福祉センター担当	社会福祉センター、老人福祉センター及び地域福祉センターの管理・経営、ボランティアセンターの総括等
ボランティア育成担当	ボランティアの育成、研修及び相談
さわやかサービス担当	生活援助、介護、送迎、緊急通報サービス
ファミリー・サポート・センター担当	住民参加型による子育て支援

平成18年度予算のあらまし

●収入の部

単位：千円

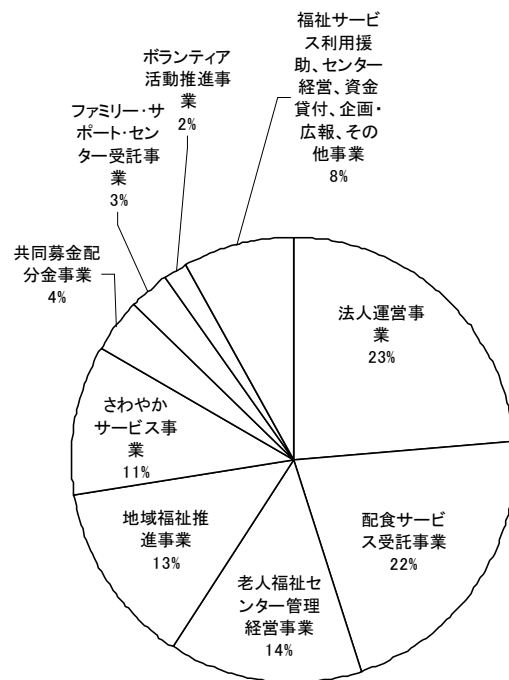
区 分	予 算 額
会費収入	38,600
寄附金収入	7,500
補助金収入	232,248
助成金収入	261
受託金収入	272,461
事業収入	94,857
貸付事業等収入	5,100
共同募金配分金収入	32,350
会計単位間繰入金収入	50,482
経理区分間繰入金収入	14,964
積立預金取崩収入	42,553
その他の収入	10,659
合 計	802,035



●支出の部

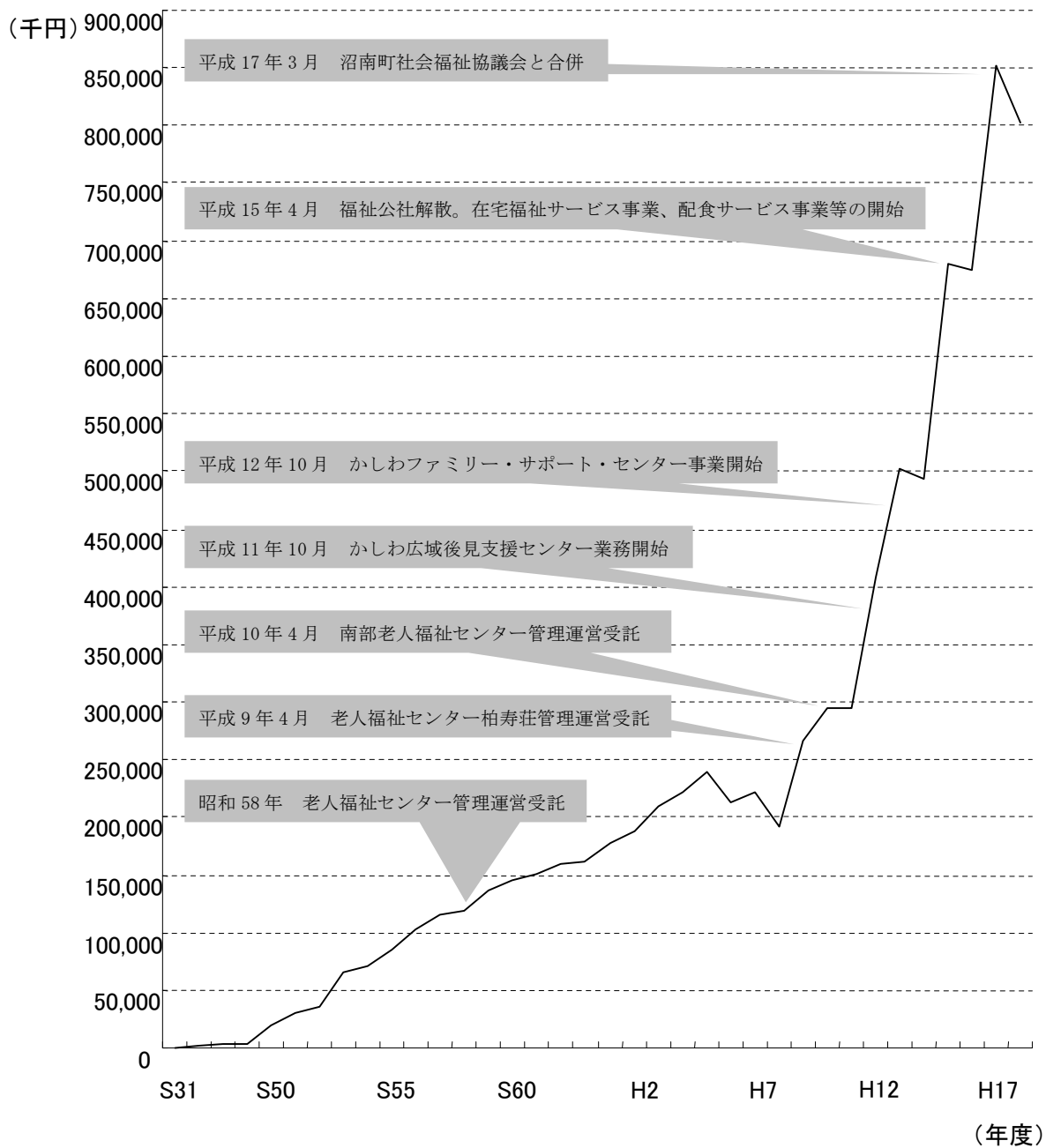
単位：千円

区 分	予 算 額
法人運営事業	188,485
企画・広報事業	8,057
地域福祉推進事業	106,298
ボランティア活動推進事業	14,287
福祉サービス利用援助事業	12,772
共同募金配分金事業	32,350
老人福祉センター管理運営事業	113,806
資金貸付事業	9,162
社会福祉センター設置経営事業	10,379
さわやかサービス事業	86,163
ファミリー・サポート・センター受託事業	24,015
配食サービス受託事業	172,876
地域福祉センター管理経営事業	10,286
その他の事業	13,099
合 計	802,035



● 予算の推移

年 度	金 額	年 度	金 額
昭和 31 年度	500 千円	平成 7 年度	222,731 千円
昭和 50 年度	18,694 千円	平成 12 年度	408,200 千円
昭和 55 年度	84,408 千円	平成 17 年度	852,608 千円
昭和 60 年度	144,934 千円	平成 18 年度	802,035 千円
平成 2 年度	188,176 千円		



創立50周年記念事業準備委員会

委員

氏名	選任区分	役職等
小竹 恵子	理事（副会長）	柏市民生委員児童委員協議会会長
神林 保夫	理事（副会長）	柏市身体障害者福祉会会長
小林 辰夫	理事（副会長）	高柳地区社会福祉協議会会長
末継 重利	評議員	松葉地区社会福祉協議会会長
米本 眞子	評議員	永楽台地区民生委員児童委員協議会会長
滝本 二三江	評議員	（福）緑の会理事長
横尾 正信	元理事	（福）美野里会理事長
豊廣 徳子	元理事	赤十字奉仕団委員
満島 正子	福祉活動経験者	元ふれあいのまちづくり推進会委員長
山縣 右治	民生委員児童委員	南部地区民生委員児童委員協議会会長
成嶋 満佐	老人クラブ連合会	老人クラブ連合会役員
中村 康雄	理事（常務理事）	柏市社会福祉協議会事務局長

委員会の開催状況

会議名	開催日	協議内容
第1回委員会	平成18年 6月21日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・来賓及び招待者の範囲について ・記念式典の内容について ・表彰の対象者について ・アトラクションについて ・記念誌の発刊について
第2回委員会	7月21日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・記念式典参加者について ・50周年記念誌について
第3回委員会	8月24日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・記念式典参加者について ・50周年記念誌について
第4回委員会	10月 4日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・記念式典の運営について ・50周年記念誌について



準備委員会の様子



準備委員会の様子

社会福祉法人柏市社会福祉協議会

創立 50 周年記念誌

発 行 2006 年 10 月 1 日
編集発行 社会福祉法人 柏市社会福祉協議会
〒277-0005
千葉県柏市柏五丁目 11 番 8 号 いきいきプラザ内
電話 04-7163-3100 FAX04-7163-9300

創立50周年記念誌



社会福祉法人 柏市社会福祉協議会